

平成29年度

「学校応援団」 「放課後子供教室」 実践事例集

＜学校応援団推進事業＞
＜放課後子供教室推進事業＞



〔体験学習の支援(鴻巣市立鴻巣南中学校)〕



〔シャボン玉遊び(北河原小わくわくクラブ・行田市)〕

埼玉県教育委員会

平成30年3月

はじめに

近年、少子高齢化の著しい進行や、地域社会のつながり、支え合いの希薄化等により、地域の教育力の低下が指摘されています。また、いじめや不登校等、学校が抱える課題が複雑化、困難化している中、学校と地域が互いにパートナーとなり、未来を担う子供たちを育てていくことが必要です。

平成27年12月に出された文部科学省の中央教育審議会答申を受け、平成29年4月に改正社会教育法が施行され、地域と学校がパートナーとして連携・協働し、社会総掛かりでの教育を実現するため、「地域学校協働活動」が法律で位置づけられました。

本県においては、保護者や地域住民が学校の教育活動を支援する「学校応援団」、子供たちの放課後等の安全・安心な居場所を提供したり、地域の人材や企業等の参画を得て多様なプログラムを実施したりする「放課後子供教室」や「土曜日の教育支援」、学習に課題を抱える中学生を支援する「中学生学力アップ教室」など、学校・家庭・地域が一体となった取組を推進しています。

各市町村や学校の熱意ある取組、また、保護者や地域の方々の御理解、御協力を受け、全ての小・中学校で「学校応援団」による活動が行われるとともに、「放課後子供教室」等の教室数が増加するなど、着実に各事業の充実が図られているところです。また、各事業に関わる児童生徒と保護者や地域の方々との交流、保護者や地域の方々同士の交流が深まる中、地域で子供たちを育てようとする気運が年々高まっており、関係の皆様方には、改めて感謝申し上げます。

さらに、平成29年度は、「地域の教育力を生かした学習支援の取組の推進」をテーマとして、志木市、ときがわ町、熊谷市、皆野町、宮代町の5市町教育委員会に研究実践に取り組んでいただき、地域の特色を生かした「学校応援団」「放課後子供教室」の充実に向けた貴重な成果が報告されております。

本事例集は、「学校応援団」と「放課後子供教室」等の事業を推進する上で参考となる代表的な事例を紹介するとともに、研究指定校における研究内容及び成果等を掲載しています。

各市町村教育委員会や小・中学校、関係団体におかれましては、本事例集を参考にいただき、「学校応援団」や「放課後子供教室」等の活動を通して、学校・家庭・地域が一体となった子供の育成を一層推進していただきますようお願いいたします。

平成30年3月

埼玉県教育局市町村支援部家庭地域連携課長 橋本 強

目 次

第1 「学校応援団」とは

「学校応援団」の概要について	2
----------------	---

第2 「学校応援団」のテーマ別実践事例

1 組織体制の整備

・ 桶川市立桶川東小学校	8
・ 北本市立中丸小学校	10
・ 横瀬町立横瀬小・中学校	12
・ 蓮田市立黒浜南小学校	14

2 活動内容の工夫

・ 戸田市立美女木小学校	16
・ 伊奈町立小針小学校	18
・ 飯能市立精明小学校	20
・ 狭山市立広瀬小学校	22
・ 富士見市立諏訪小学校	24
・ ふじみ野市立三角小学校	26
・ 坂戸市立三芳野小学校	28
・ 鶴ヶ島市立長久保小学校	30
・ 三郷市立丹後小学校	32

3 地域に根差した活動

・ 深谷市立明戸小学校	34
・ 小鹿野町立長若小学校	36

4 学校運営協議会との連携

・ 新座市立野寺小学校	38
-------------	----

5 学校・地域の団体等との連携

・ 和光市立第三小学校	40
・ 東松山市立市の川小学校	42
・ 毛呂山町立毛呂山小学校	44
・ 久喜市立本町小学校	46

6 中学校における取組

・ 川口市立元郷中学校	48
・ 鴻巣市立鴻巣南中学校	50
・ 三芳町立藤久保中学校	52
・ 行田市立忍中学校	54

第3 「学校応援団」参考資料

平成29年度「学校応援団」の推進に係る調査結果概要.....	58
--------------------------------	----

第4 「放課後子供教室推進事業」とは

「放課後子供教室推進事業」について.....	64
------------------------	----

第5 「放課後子供教室推進事業」の実践事例(実施市町の取組)

【放課後子供教室(一体型事例)】

1 川口市.....	72
2 草加市.....	73
3 蕨市.....	74
4 戸田市.....	75
5 和光市.....	76
6 新座市.....	77
7 桶川市.....	78
8 北本市.....	79
9 狭山市.....	80
10 入間市.....	81
11 富士見市.....	82
12 日高市.....	83
13 毛呂山町.....	84
14 熊谷市.....	85
15 上里町.....	86
16 春日部市.....	87
17 羽生市.....	88
18 蓮田市.....	89
19 杉戸町.....	90
20 松伏町.....	91

【放課後子供教室】

21 鴻巣市.....	92
22 志木市.....	93
23 所沢市.....	94
24 東松山市.....	95
25 坂戸市.....	96
26 鶴ヶ島市.....	97
27 ふじみ野市.....	98
28 嵐山町.....	99
29 小川町.....	100
30 川島町.....	101
31 吉見町.....	102
32 ときがわ町.....	103

33	秩父市	104
34	横瀬町	105
35	小鹿野町	106
36	寄居町	107
37	行田市	108
38	久喜市	109
39	三郷市	110

【土曜日の教育支援】

1	上尾市	111
2	蕨市	112
3	朝霞市	113
4	新座市	114
5	北本市	115
6	所沢市	116
7	東松山市	117
8	坂戸市	118
9	鶴ヶ島市	119
10	ふじみ野市	120
11	毛呂山町	121
12	越生町	122
13	熊谷市	123
14	深谷市	124
15	三郷市	125

【中学生学力アップ教室】

1	川口市	126
2	北本市	127
3	越生町	128
4	熊谷市	129
5	秩父市	130
6	深谷市	131
7	小鹿野町	132
8	上里町	133
9	寄居町	134
10	加須市	135
11	久喜市	136

第6 学校・家庭・地域連携推進事業の取組、指導者研修等

学校・家庭・地域連携推進事業の取組、指導者研修等について	138
------------------------------	-----

第7 地域の教育力を生かした学習支援の取組の推進のための研究委嘱について

「地域の教育力を生かした学習支援の取組の推進」のための研究委嘱について	142
-------------------------------------	-----

第8 地域の教育力を生かした学習支援の取組の推進のための研究実践事例

1	志木市教育委員会	146
2	ときがわ町教育委員会（研究指定校：明覚小学校）	148
3	熊谷市教育委員会（研究指定校：籠原小学校）	150
4	皆野町教育委員会（研究指定校：三沢小学校）	152
5	宮代町教育委員会（研究指定校：須賀小学校）	154

第1 「学校応援団」とは



みのりの秋集会
蓮田市立黒浜南小学校

「学校応援団」の概要について

1 趣旨及び背景

(1) 趣旨

学校・家庭・地域が一体となって子供の育成に取り組む。

- 学校の活性化を図る。
- 家庭や地域の教育力の向上を目指す。

(2) 背景

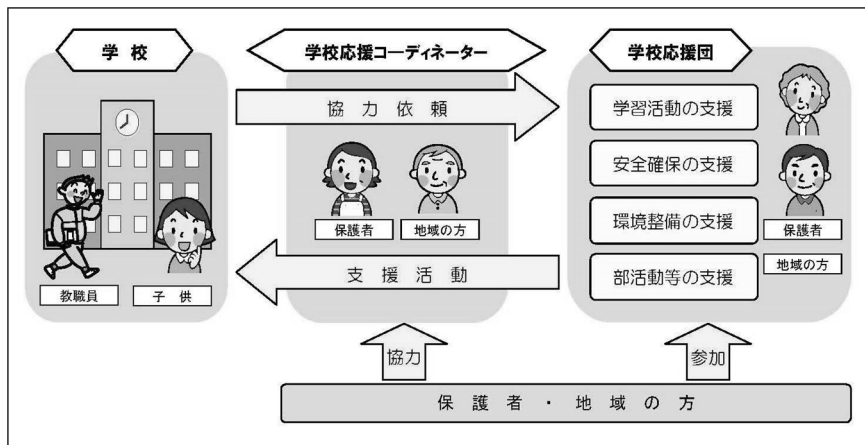
少子化、核家族化、都市化、情報化など、社会の急激な変化に伴い、子供たちを取り巻く環境に様々な課題が生じている。

- 学校 …… 学力低下の懸念、規範意識の低下、体力の低下、社会の変化への対応の必要、学校教育の役割の増大
- 家庭 …… 家庭の教育力の低下、保護者の価値観の多様化
- 地域 …… 地域の教育力の低下、異年齢や異世代の人との交流の減少

2 内容

(1) 「学校応援団」とは

- 保護者や地域住民が、ボランティアとして学校の教育活動を支援する組織。
- 学校と学校応援団との橋渡し役として、「学校応援コーディネーター」が配置されている。



【現状】

(平成29年度)

組織状況	小学校	中学校
全学校数	708校	355校
学校応援団設置校	708校	355校
組織率	100%	100%

(2) 「学校応援コーディネーター」とは

- 学校と「学校応援団」との間に立って調整を行うボランティア。
県では、「学校応援団」の組織的・継続的な活動を目指すため、「学校応援コーディネーター」の複数配置を推奨している。
- 「学校応援コーディネーター」の担い手
(例) ・ P T A 役員、元 P T A 役員、同窓生
・ 町内会長、区長、自治会長
・ 学校支援グループの代表
- 「学校応援コーディネーター」の役割
(例) ・ 学校の依頼を受けて、ボランティアと連絡・調整
・ 地域の情報を学校に提供
・ 「学校応援団」の登録者名簿の管理

【現状】

(平成29年度)

	小 学 校	中 学 校
配置されている学校数	708校	355校
配置されている人数	1,699人	642人

(3) 「学校応援団」の主な活動内容

- 学習活動への支援
保護者や地域住民が「学習支援ボランティア」として、児童生徒の学習活動を支援
(例) ・ ミシン、書写等の実技支援
・ 放課後、長期休業中等の補習支援
・ 体験活動（「みどりの学校ファーム」を含む）への支援 等
- 安心・安全確保への支援
校区内で防犯パトロールを行うなど、児童生徒の登下校時などの安全確保を支援
(例) ・ 登下校時における通学路の見守り
・ 朝の挨拶運動、校内外の巡回
・ 防災訓練への協力 等
- 学校環境整備への支援
学校内での花壇の整備を行うなど、教育活動の環境整備を支援
(例) ・ 花壇の整備、除草
・ 学校の施設設備の修繕
・ 学校図書館の図書整理 等
- 部活動・クラブ活動への支援
ボランティアの経験を活かした部活動指導や大会への引率支援
(例) ・ 外部コーチとしての実技指導
・ 大会への引率支援 等

【現状】

(平成29年度)

活動内容	小学校	中学校
学習活動への支援	696校	200校
安心・安全確保への支援	693校	292校
学校の環境整備への支援	662校	304校
部活動・クラブ活動への支援	174校	171校

※複数の活動を行う学校あり



【わら細工作り体験支援】
(小鹿野町立長若小学校)



【安全の見守り】
(坂戸市立三芳野小学校)



【校地内の環境整備】
(行田市立忍中学校)

【成果】

- 学校の教育活動の活性化
 - ・ 学習活動への支援により、子供の学習に対する興味や関心が高まった。
 - ・ 子供が地域住民と元気に挨拶をしたり、お礼を言ったりすることができるようになった。
 - ・ 「みどりの学校ファーム」の農業体験活動における育成指導や除草、地域伝統芸能の技術指導など、学校における体験活動の内容が充実するようになった。
- 家庭や地域の教育力の向上
 - ・ 保護者がどの子に対しても、わが子と同じ思いで接するようになり、地域の一体感が広がりつつある。
 - ・ 自分の得意なことを「学校応援団」での活動に生かすことにより、保護者や地域住民にとって喜びや生きがいになっている。
 - ・ 学校応援コーディネーターやボランティアが「放課後子供教室」の教育活動サポーター等としても活動するなどの連携を通して、地域の人々の結びつきが生まれ、地域の教育力が向上している。

【課題】

- ・ ボランティア及び学校応援コーディネーターの確保
- ・ 「学校応援団」の活動内容の充実

3 「学校応援団」の組織率の推移

	小学校		中学校	
	応援団が組織されている学校数	組織率（※）	応援団が組織されている学校数	組織率（※）
平成17年度	7校	1%		
平成18年度	208校	29%		
平成19年度	270校	38%		
平成20年度	456校	64%	122校	33%
平成21年度	637校	89%	192校	52%
平成22年度	713校	99%	276校	75%
平成23年度	713校	100%	351校	97%
平成24年度	710校	100%	363校	100%
平成25年度	709校	100%	362校	100%
平成26年度	708校	100%	361校	100%
平成27年度	708校	100%	359校	100%
平成28年度	708校	100%	355校	100%
平成29年度	708校	100%	355校	100%

※「組織率」＝「応援団が組織されている学校数」／「全学校数」

4 推進方策

（1）地域学校協働活動推進事業の活用

- 国の補助事業（地域学校協働活動推進事業）を活用し、「学校応援団」の活動の充実を図る。

（2）その他の方策

- 市町村・PTA・民間団体の代表者で構成する推進委員会を核として、優れた実践事例等の普及・啓発を図る。
- 地区別実践発表会やホームページ、実践事例集等を通して、実践を進める上での留意点やヒントとなる情報を提供する。
- 県と市町村との推進体制（担当者会議）の充実を図る。

（3）平成29年度における主な取組

- 予算上の支援（例：防犯隊用ベスト、広報チラシ印刷、保険料等）
 - ・ 地域学校協働活動推進事業 25市町村で活用（政令市・中核市除く）
- 全県への普及・啓発
 - ・ 県の「学校・家庭・地域連携推進委員会」 2回開催
 - ・ 教育事務所での「学校・家庭・地域連携担当者会議」 2回開催×4地区
 - ・ 各地区での「学校・家庭・地域連携実践発表会」 4か所で実施

第2 「学校応援団」の テーマ別実践事例

〈テーマの内容〉

- 1 組織体制の整備
- 2 活動内容の工夫
- 3 地域に根差した活動
- 4 学校運営協議会との連携
- 5 学校・地域の団体等との連携
- 6 中学校における取組



読み聞かせ
狭山市立広瀬小学校

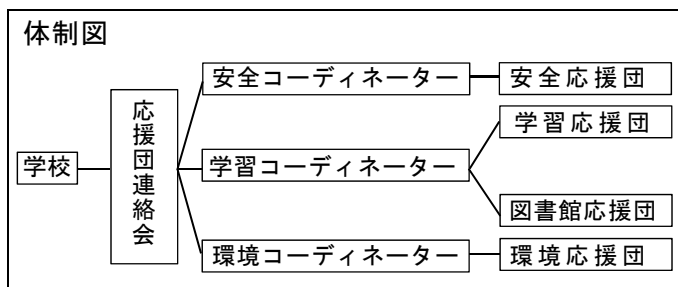
1 組織体制の整備

桶川市立桶川東小学校の実践 ～ 家庭・地域との連携による教育支援活動 ～

1 活動の目的・概要

本校では、学校教育目標「未来へはばたけ けやきっ子 ～あかるく かしこく たくましく～」の具現化にあたり、学校応援団の活動をとおして家庭や地域の教育力を積極的に活用し、学校の活性化を図るとともに、家庭や地域の教育力の向上を目指し、学校・家庭・地域の三者が一体となり、児童の健全育成に取り組むことを活動の目的としている。

現在95名の方が学校応援団に登録し、「安全」「学習」「図書館」「環境」の四つの分野で活動している。



2 活動計画

- | | | | |
|------|-------------|----|-----------------|
| 4・5月 | 学校応援団員の募集 | 6月 | 応援団ごとの顔合わせ、活動開始 |
| 7・8月 | 学校応援団員の登録確認 | 9月 | 学校応援団連絡会の開催 |
| 2・3月 | 学校応援団のまとめ | | |

安全応援団は、児童の登下校の見守り活動を中心に行っている。図書館応援団は、学校図書館の整備や読み聞かせ等の活動をしている。環境応援団は毎月第1水曜日に校内の環境整備作業を行っている。各応援団が主体となって、その時期ごとに必要な活動を計画して行うとともに、学校からの要請に応じて随時活動している。

3 特徴的な活動内容

(1) 図書館応援団



〔読み聞かせ〕

学校図書館教育主任と図書館コーディネーターを中心に桶川子供の本の会や図書ボランティアが活動している。本の修理や掲示物作り等、学校図書館の環境整備や月曜日、金曜日の読書タイムにおける「読み聞かせ」、25分休みにおける「アニメーション(※)」「パネルシアター」を行い、読書への関心を高める活動を展開している。

※アニメーション…子供が生まれながらに持っている読む力を引き出そうと開発・体系化した読書指導法

(2) 学習応援団

生活科の「町たんけん」引率支援や家庭科におけるミシンボランティア、総合的な学習の時間における物づくり等、体験活動の支援を行っている。また、教育実習期間が終わった大学生が、その後も来校し学習支援を行ったり、県立桶川高等学校の生徒が学習ボランティアとして夏休みのスキルアップ学習支援に参加したりしている。



〔ミシンボランティア〕

1 組織体制の整備

(3) 環境応援団

環境応援団では、毎月第1水曜日に定例活動を行っている。通常の清掃では行き届かない箇所の手入れや校地内の除草や樹木の剪定等、校舎内外及び校地内の環境美化・環境整備を図っている。活動時間に児童の25分休みの時間も含まれるため、児童、教職員、地域住民、保護者と協働する機会となっている。また、6月のクリーンデーや夏季休業中の「親子除草」には、家庭・保護者だけでなく地域住民の皆様も参加し、合計387名での活動となった。



【クリーン活動】

4 実施に当たっての工夫



【児童との給食交流会】

今年度は、学校応援団の皆さんに気持ちよく活動していただける環境づくりの一つとして、学校生活の様子を見ていただくとともに、給食を児童と一緒に食べてもらう時間を設定した。参加者は9名であったが、ことのほか喜んでいただき、児童にとっても地域の方に支えられていることを実感できる良い機会となった。また、花壇の花植えに環境委員会の児童が参加したり、中学生の社会体験チャレンジの時、生徒が環境応援団の方と一緒に草取りをしたりと、児童・生徒が地域の方と交流できる

時間を工夫した。また、「できる人が、できる時に、できること」を合言葉に、年度当初学校応援団募集の通知を保護者に配付したり、区長さんに依頼して回覧板を活用したりして、無理のない支援をお願いしている。さらに、学校情報メールのリニューアルに伴い、地域の方にも随時情報メールへの登録をお願いしている。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・ 学校図書館を整備するとともに、読書活動を一層推進することができた。
- ・ 児童が意欲的に学習に取り組み、学習を深めることができた。同時にいろいろな方と接する機会が多くなり地域の大人を知る機会となった。
- ・ 環境活動をとおして、児童、教職員、地域住民、保護者と協働する機会が増えた。
- ・ 新学校情報メールへの登録により、天候の急変等の緊急時に下校時刻の変更等をお知らせできるようになり、安全応援団との連絡が容易になった。

(2) 地域の方の声

- ・ 読み聞かせを毎回楽しみに児童が聞いてくれるので、やりがいがあり、次はどんな話にしようか等向上心をもって取り組んでいる。(図書館応援団)
- ・ 年々子供たちがよくあいさつをするようになってきた。できるときに協力しようという思いで、下校時家の前の道路に立って見守っている。(安全応援団)
- ・ 活動日が決まっているので、予定が立てやすく、参加しやすい。(環境応援団)
- ・ 直接子供たちと触れ合う機会があり、とてもうれしく楽しいひと時であった。子供たちのため、これからも学校に協力していきたい。(給食交流会参加者)

1 組織体制の整備

北本市立中丸小学校の実践

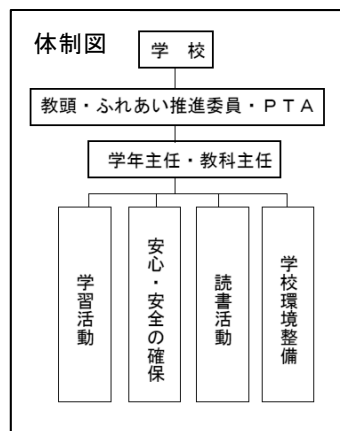
～ 地域と歩む学校づくり 「多様な活動を目指して」 ～

第2「学校応援団」の
テーマ別実践事例

1 活動の目的・概要

本校の目指す学校像である「子どもが喜んで通う学校 保護者が通わせたい学校 教職員がやりがいと生きがいを感じる学校」の実現のためには、児童の学習活動や教育環境の充実が不可欠である。

そのために、これまでも①地域の方々の時間と技術をお借りし、学校の教育活動を支援していただく②地域の方々に学校においでいただき、学校を知っていただくなどを目的に、毎年学校応援団を募集し、地域に開かれた、地域と一体となった教育活動を実践している。



2 活動計画

年度当初に以下の支援内容について中丸小応援団の募集を行っている。それぞれの組織ごとにリーダーを決め、担当教員と一緒に年間の計画について話し合うことによって、共通理解を図っている。なお、学校応援団への登録は随時受け付け、いつでも協力や参加ができる体制を整えている。

学習活動への支援	生活・音楽・図工・家庭・体育・総合的な学習の時間等（通年）
安心・安全確保への支援	登下校時の見守りや防犯活動等（通年）
読書活動への支援	貸し出し補助・掲示物作成・書架の整理等（通年）
学校環境整備への支援	校庭の植木の剪定や伐採（6月～9月） 落ち葉掃き等（10月～12月）

3 特徴的な活動内容

○ 学習活動への支援



〔1学年 むかしあそび学習会〕



〔3学年 学区探検〕

○ 安心・安全確保への支援

学校応援団のパトロール隊（安心・安全への支援）とPTAで協力し、子供の登下校の見守りや通学路の点検をしている。

また、子供たちと元気なあいさつをかわすともに、登校前には、正門の落ち葉掃きも協力していただいている。



〔登下校の見守り隊〕

1 組織体制の整備

○ 読書活動への支援



〔図書の掲示物の作成〕

平成30年は成年なので「いぬをテーマにした本」に関する掲示物を作っています。

○ 学校環境整備への支援



〔木の剪定・伐採〕

4 実施に当たっての工夫

学校応援コーディネーター（ふれあい推進長）と学校の担当者（教頭等）が連絡調整を図り、学校応援団の加入状況や活動内容を確認して、必要な措置を講じるようにしている。一例として、1年生が毎年3学期に行う「昔遊び」の支援をいただいている方の高齢化が進み、連携に苦慮したことがあったが、学校応援コーディネーターを中心に新規加入者を募り、学校応援団員の確保と貴重な「昔遊び」の活動を継続することができた。

○ 今後の展望

- ・ 教員の異動や学校応援団のメンバーの交代があっても活動が途絶えることのないように、学校応援コーディネーターと学校の担当者（教頭等）の連携の強化と確実な引き継ぎを行う。
- ・ 「学校がやらなければならないこと、学校応援団に依頼すること、応援団ができること」を明確にして、年間指導計画を見直し、協働して教育活動に取り組むようにする。

5 成果と地域の声

(1) 成果

- ・ 学校の教育活動の活性化

学校応援団のサポートが必要な単元を年間指導計画に明確に位置づけることにより、計画的な活用ができています。また、反省を次年度に生かし改善を図ることができています。

- ・ 安全面の充実

パトロール隊の見守りにより、登下校中の交通事故ゼロが継続している。また、毎年、パトロール隊、教員、スクールガード・リーダーや保護者との合同の通学路点検を実施し、危険箇所の改善を市に要望している。その結果、昨年度は歩道の安全ポールが設置され、また、今年度は手押し信号機の付け替えが行われた。

- ・ 地域の方との交流活動の充実

学校応援コーディネーター（ふれあい推進長）を中心に、交流活動に関する情報が学校へ届くというシステムを確立した。これにより、相互の連絡調整が迅速に行われるようになった。

(2) 地域の方の声

- ・ 子供たちとふれあうことが何よりも楽しい。また、継続して授業に関わったり、学校の様子が分かったり、子供たちがあいさつをしてくれたりするのがうれしい。
- ・ 毎年、感謝の会（「ありがとう集会」）に招かれるのを楽しみにしている。



〔ありがとう集会〕

1 組織体制の整備

横瀬町立横瀬小・中学校の実践

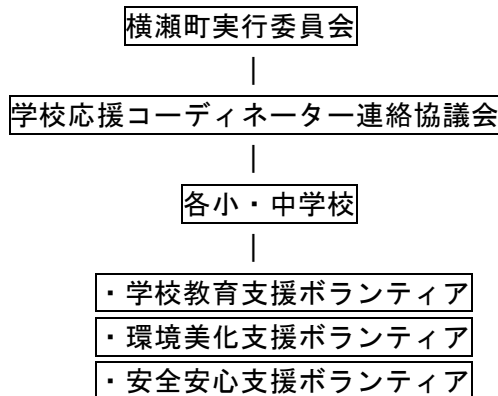
～ 地域人材を生かした特色ある学校応援団の取組 ～

1 活動の目的・概要

横瀬町は学校の統廃合により、現在小・中学校が各1校ずつという、県内でも数少ない特性をもった自治体である。そのため、地域住民の学校教育への期待・関心は高い。

現在、登録制により100名を超えるボランティアの方が、学校教育・環境美化・安全安心の3分野における支援活動に取り組んでおり、学校における多くの体験活動が学校応援団により支えられている。

体制図



2 活動計画

月	活動内容
3月	・支援ボランティア募集
4月	・学校応援団安全安心ボランティア紹介式 ・各学校での取組開始
5月	・第1回実行委員会開催（組織づくり、事業計画立案）
7月	・第1回学校応援コーディネーター連絡協議会開催（活動内容について協議）
8月	・学校応援団ボランティア研修会（子供の成長を支える講演会）の開催
9月	・第2回学校応援コーディネーター連絡協議会開催 （1学期活動報告、学校応援団ボランティア研修会の開催に向けて協議）
	・第2回実行委員会開催（学校応援団ボランティア研修会について協議）
1月	・第3回学校応援コーディネーター連絡協議会開催 （1、2学期活動報告、刊行物原稿検討）
	・第3回実行委員会開催（今年度の成果・課題、次年度に向けて協議）
3月	・刊行物「横瀬町学校応援団の取組」発行、回覧

3 特徴的な活動内容

(1) 学校教育支援の取組

ア 小・中学校における教科等での教育支援

菊づくり、しいたけ栽培、読み聞かせ、クラブ活動、昔遊び、農業体験、福祉体験、休業中の自主学習補助などの学習への支援を行っている。

イ 中学校における部活動への指導

柔道部、剣道部、ソフトテニス部、卓球部、バレーボール部、バスケットボール部、美術部で支援している。

(2) 環境美化支援の取組

小・中学校において、校庭の除草作業、花の苗植え、図書の整理等を行っている。



〔ミシン学習の支援〕

1 組織体制の整備

(3) 安全安心支援の取組

小・中学校における登下校の見守り、防犯看板の整備など



〔登下校の安全・安心支援〕

(4) 学校応援団ボランティア研修会

○ 子供の成長を支える講演会の開催

日時 平成29年8月24日（木）

会場 横瀬町民会館

対象 支援ボランティア、小・中学校PTA、教職員及び地域住民

講師 「LGBTの家族と友人をつなぐ会」会員 中島 潤 氏

「全ての子どもが自分らしく育つために ～多様な性とLGBTの視点から～」という演題で、性のあり方は、体の性、自分が考える性、表現する性、恋愛対象の性という要素の掛け合わせで、人の数だけある。誰もが自分らしく生きるための大切な要素で、誰にとっても尊重されるべき人権である。ワークショップ形式のアクティビティも交えつつ、分かりやすくご講演いただいた。



〔8月 LGBT研修会〕

4 実施に当たっての工夫

- ・ 小・中学校の各支援ボランティア名簿の管理、実行委員会や学校応援コーディネーター連絡協議会の運営等を町（教育委員会）と各学校とで有機的な連携をとり、効率的に学校応援団事業が進んでいる。
- ・ 学校公開日に合わせて、学校応援団の支援ボランティアの方との教育活動を計画し、保護者や地域の方に広く周知するように工夫している。
- ・ 子供たちと支援ボランティアの方と一緒に給食を食べる機会を多く設定し、より地域の支援ボランティアの方と親しみ、身近な存在となるよう工夫している。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・ 年度ごとに各支援ボランティアを募り、地域住民への周知・協力を図りながら活動内容を充実させることができた。
- ・ 支援ボランティアを主な対象とした研修会に、教職員やPTA、民生委員・児童委員など地域の方も招いて、「地域の子供を地域で育てる」ための啓発を図ることができた。
- ・ 支援ボランティアとしてご協力いただいている方たちの意欲や関心を高めることができた。

(2) 地域の方の声

- ・ 「子供たちが、自ら進んであいさつをしてくれます。自分も毎日元気をもらい、楽しく続けています。」
- ・ 「子供たちと一緒に勉強すると頭も活性化されて、いい刺激になります。」
- ・ 「毎回楽しく学習のお手伝いをさせていただいています。児童生徒さんからお礼の手紙をいただくと、本当に嬉しくなります。今後も、できる限りのお手伝いをさせていただきたいと思っています。」

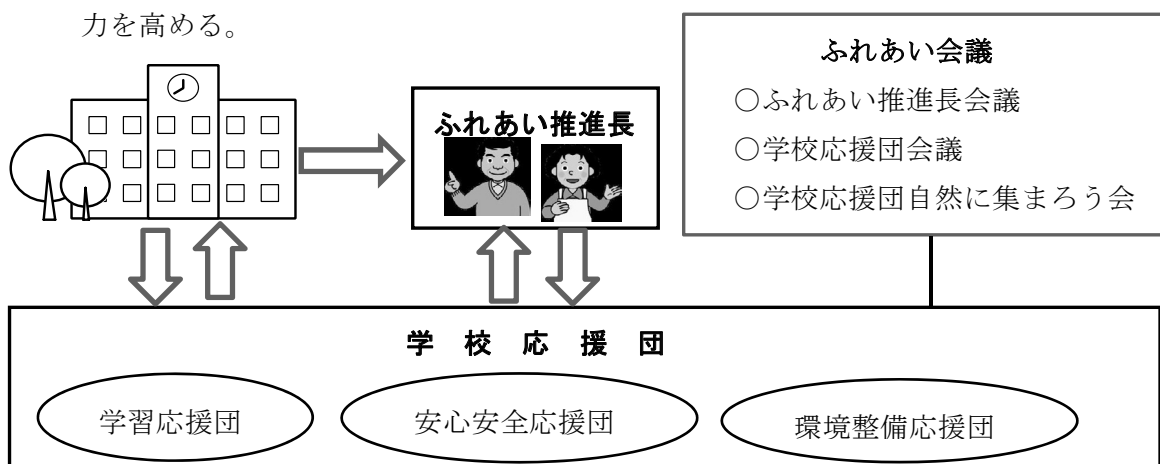
1 組織体制の整備

蓮田市立黒浜南小学校の実践

～ 学校・家庭・地域が一体となって子どもの育成に取り組む ～

1 活動の目的・概要

- (1) 地域の方との交流により、子供たちに「生きる力」や「社会力」を身に付けさせる。
- (2) 「開かれた学校づくり」を進め、保護者や地域の方の学校に対する信頼を深める。
- (3) 体験活動支援や環境整備、登下校の支援活動などにより、子供たちが安心・安全に活動でき、学習環境を充実させる。
- (4) 学校が元気になり、子供が元気になり、地域が元気になることにより地域全体の教育力を高める。



2 活動計画

	各応援団の活動（学習・安心安全・環境整備・会議）
年間	お話会 登下校の見守り 学校応援団自然に集まろう会
4月	学校応援団さんを紹介する会 梨農家見学（受粉） 学区めぐり 消防署見学 ふれあい推進長会議 学校応援団会議
5月	黒浜沼探検 梨農家見学（梨の実すぐり） サツマイモ苗植え 田植え 消防署見学 運動会準備 図書館見学
6月	親子除草 家庭科初めてのミシン ジャガイモ掘り ザリガニつり
7月	P T Aバザー サマースクール 一斉下校 親子除草
9月	家庭科ミシン縫い なかよしウォーク 梨農家見学（収穫） ふれあい推進長会議 学校応援団会議
10月	稲刈り サツマイモ掘り セキスイハイム工場見学 みのりの秋集会
11月	黒浜沼探検
12月	持久走大会 一斉下校
1月	凧作り 火おこし体験餅焼き 学校応援団会議
2月	お米をたこう 昔の遊び コサージュづくり
3月	一斉下校 学校応援団さんありがとうの会 ふれあい推進長会議

3 特徴的な活動内容

- (1) 【学習】学習活動への支援
 - ア 授業における学習支援…家庭科（ミシン・手縫い・調理）、総合の学習の時間（交流、勤労、物作り）、生活科（昔の遊び、虫取り）、読書（読み聞かせ）
 - イ 体験活動の指導…農業体験（田植え、稲刈り、じゃがいもほり）、交流教育（収穫祭）
- (2) 【安全】毎日の児童への見守り
 - ア 登下校の見守り、声かけ、引率
 - イ 防犯パトロール（放課後、長期休業中）
 - ウ 校外学習の引率補助、学校行事への協力
- (3) 【環境】児童が活動しやすい環境の整備
 - ア 親子除草への協力
 - イ 水田・畑の管理や除草
 - ウ 体験活動の準備、運営補助、各行事への協力



〔稲刈り〕



〔みのりの秋集会〕

4 実施に当たっての工夫

ふれあい推進長が中心となり、各応援団の活動を進めている。活動内容は、毎月第1火曜日の会議で確認、協議し共通理解している。さらに、PTA役員も毎月の会議に連絡・調整役として出席している。また、週1回実施している「放課後子ども教室」の講師としても協力していただき、様々な活動を1年生から3年生まで行っている。



〔絵手紙をかこう〕

5 成果と地域の方の声

- (1) 成果
 - ・ 農業体験や交流学习では、学校内や教師の力だけでは得られない様々な体験活動ができた。また、子供たちにとって教師以外の人から教わることで、幅広い社会の見方が身についてきた。
 - ・ 安心・安全の支援として声かけやパトロールをしてもらい、地域の子供たちとしてお互いに意識づけられ、防犯や交通事故防止に役立った。
 - ・ 授業が効率的に進められるようになった。家庭科等、安全に実習も行えるようになり、学習の環境が良くなった。
- (2) 地域の方の声
 - ・ 活動の最後に子供たちから「ありがとう」と言われた時の感動が忘れられません。
 - ・ 地域で子供たちから挨拶されることが多くなり、子供たちと接する機会が増えた。
 - ・ 子供たちの活動と一緒に、今まで自分が体験できなかったことが体験できた。
 - ・ 学校応援団同士の交わりから、色々なことを知り勉強になった。

2 活動内容の工夫

戸田市立美女木小学校の実践

～ 学校、家庭、地域の3者連携で、子供を育てる ～

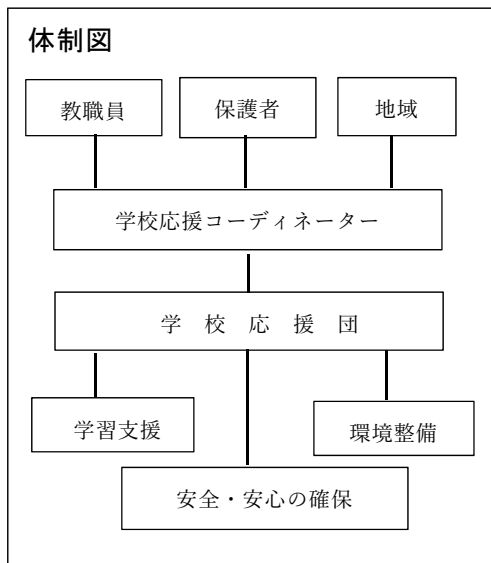
1 活動の目的・概要

(1) 学校経営方針

- 保護者・地域が児童の未来を託せる学校づくり
 - 地域に信頼される学校づくり
- 教職員、保護者、地域が一体となって教育活動を進める。学校応援団活動の充実を図る。

(2) 学校応援団活動の位置づけ

本校における「学校応援団」は、①学習活動への支援②安全・安心確保のための支援③学校の環境整備への支援があり、日頃から、教育活動全般で支援していただいている。平成29年度より、学校応援コーディネーターが2名となり、学校と連絡を取り合い、活動をしている。



2 活動計画

月	活動内容
4月	○学校応援団事業提案 ○学校応援コーディネーターの決定
5月	○学校応援団の募集→登録 ○託児 ○1・2年生活：町探検 ○1年音楽：鍵盤ハーモニカ教室 ○3年音楽：リコーダー教室 ○体育：投力向上教室①
6月	○4年総合福祉体験：車いす・点字・ガイドヘルプ・ボッチャ等
7月	○託児 ○金管クラブ：楽器演奏指導
8月	○夏休み期間：中学生による学習支援・・・とだっ子学習クラブ、英語教室 ○校庭遊具ペンキ塗り・除草
9月	○1年生活：虫とり ○託児
10月	○5・6年家庭：調理実習・ミシン ○1・2年生活：昔遊び
11月	○体育：投力向上教室②
12月	○3～6年書きぞめ教室 ○6年音楽：和楽器
1・2月	○託児
3月	○体育館清掃

○読み聞かせ：おはなしくまさん
○朗読：おはなしのくに
○登下校時の見守り
○花いっぱい活動
(春夏秋冬)

通年で

3 特徴的な活動内容

(1) **学習支援**：全学級：読み聞かせグループ「おはなしくまさん」の活動

美女木小学校で誕生した読み聞かせグループの活動である。学校応援団のもと、子供たちや先生方に支えられ15年目を迎えた。毎週水曜日、読書タイムの時間に子供たちに絵本の読み聞かせを行っている。メンバーは在校生の保護者だけでなく、卒業生の保護者など地域ぐるみで和気あいあいと活動している。

(2) **学習支援**：3～6年書きぞめ学習の支援

11月下旬から12月中旬に、指導者を招き、書きぞめ学習を実施している。きめ細かな支援や専門的な知識・技能に触れることで、子供たちは意欲的に学習に取り組んでいる。

2 活動内容の工夫

(3) 環境支援：「美女木小：花いっぱいの活動」

花を育成する活動を通して、生命の尊さや自然愛護の精神等も培え、環境教育の観点からも有意義である。花の美しさ、彩り、四季折々の風物詩は、児童、教職員、保護者の心を和ませる。活動は校庭の花壇への花苗植えが中心であり、特に、3月の卒業式、4月の入学式に向けて、「花いっぱいの活動」を実施している。



いつも物語の中に引き込まれてしまいます。



分かりやすい教え方で、字が上手に。



季節の花に囲まれています。

4 実施に当たっての工夫

学校応援コーディネーターを複数配置することで、負担軽減、活動の充実を図っている。学習支援の「読み聞かせ」では、見学会を開き、興味のある方や一緒に活動したい方が、気軽に参加できるようにしている。

今後は、詳細な打合せをする時間を確保し、継続的に活動していくことで、地域の方とのつながりをより深いものにしていく。「無理なく、できることから、できる人が」を合い言葉に活動を推進していく。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

学校応援団の方のきめ細かな支援や専門的な知識・技能に触れることで、子供たちは意欲的に学習に取り組むことができた。また、安全にも配慮して行うことができた。さらに活動を見直し・改善していくことでよりよい活動となるよう学校応援コーディネーターとの連携をより一層深めていきたい。

○ 教職員の声

- ・ 子供たちが学校応援団の方からの指導・助言を受け、やる気に満ちあふれてきているのがよく分かった。とてもありがたく感じている。
- ・ 1年で終わらず、今後も継続的に取り組んでいくことが大切だと思う。

○ 児童の声

- ・ 書きぞめを上手に書くのは難しかったけれど、学校応援団の方に丁寧に教えていただき、うまく書けるようになった。
- ・ ミシンの使い方のコツがわかった。優しく教えてもらったので、作品も上手にできて、嬉しかった。

(2) 地域の方の声

- ・ 子供たちとの交流や上達する姿を見ると、私自身とてもやりがいを感じる。
- ・ 今後も児童の健全育成と教職員の負担軽減のため、連携できるように努める。



ミシンで、うまく縫うコツはね・・・。

2 活動内容の工夫

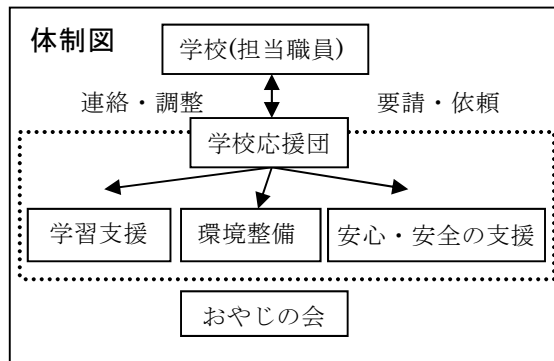
伊奈町立小針小学校の実践

～ 学校・保護者・地域が連携した学校応援団活動をめざして ～

1 活動の目的・概要

学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子供を育てる「開かれた学校づくり」を推進し、学校教育目標「心豊かに伸びる子 やさしい子 考える子 元気な子」の具現化を図る。

- (1) 保護者・地域の力を活用して学校の活性化を図る。
- (2) 学校・家庭・地域の教育力の向上をめざす。



2 活動計画

学校応援団支援ボランティアの募集・登録は、保護者を中心として年間を通して行っている。学習支援、環境整備、安心・安全の支援の3つのボランティア組織を構成し、各学年の年間指導計画に基づき、協力の要請をし、活動内容を決定している。学校応援団の力を生かした教育活動を展開し、次年度に向けて活動の評価と評価を生かした改善をしていく。

3 特徴的な活動内容

(1) 学習支援活動

5年生の家庭科の学習では、手縫いの学習に協力していただいた。初めて針と糸を持つ児童が多かったが、個別に手縫いの方法やきれいに縫うコツを教えていただき、安心して学習することができた。

2年生の生活科の学習では、さつまいもパーティーの調理補助をしていただいた。春に植えたさつまいもを自分たちで収穫し、包丁を使って切り、蒸し器でパンケーキを作った。包丁を持つ児童に後ろから手を添えたり、蒸し器の湯気に注意を促したりしていた。ボランティアの方々のさりげない支援のおかげで、児童一人一人が達成感を味わうことができた。



【2年 さつまいもパーティー】

(2) 環境整備支援活動

傷んでいる本が増えてきたため今年度から図書ボランティアを募り、活動を始めた。週に1回集まり、本の修繕を行っている。本がきれいに修繕されることで、読みたかった本を読むことができ、児童は大変喜んでいる。物を大切に作る気持ちも育むことができると考える。

また、読書月間には、たくさん本を読んだ児童にプレゼントを作成した。心のこもった手作りのプレゼントを手にし、児童は、読書に対する意欲をさらに高め



【図書ボランティアによる本の修繕】

2 活動内容の工夫

ていた。

8月には、PTAが中心となり、校地内の除草を行った。11月には、おやじの会と教職員が側溝掃除を行った。普段、手が回らない場所をきれいにすることができ、児童は気持ちよく学校生活を送ることができた。

(3) 安心・安全の支援活動

地域の防犯ボランティアの方々が毎日、下校時刻に合わせて立哨指導を行い、防犯・交通事故防止に努めている。

また、校外学習における児童の引率、交通安全指導も行っている。1年生の校外学習では、行き帰りだけでなく公園内での児童の見守りも行った。2年生の校外学習では、グループに分かれての活動のためグループごとに付き添っていただいた。行動範囲が広がり、有意義な学習をすることができた。



〔1年 校外学習同行〕



〔2年 校外学習同行〕

4 実施に当たっての工夫

6月には、「感謝集会」を開催し、防犯ボランティアの方々に招待し、手紙を渡したり、給食を一緒に食べたりするなど、交流を深めた。ボランティアの方との交流を通し、感謝の気持ちが育まれることが期待される。

学習支援に関しては、支援していただきたいことを伝えたり、作業の手順がわかるようなプリントを作成したりして、「どんな支援をしたらよいかわからない。」というボランティアの方の不安を軽減できるようにした。



〔防犯ボランティアさんとの会食〕

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

学校内の環境整備、登下校や学習時の安全サポートにより、安心・安全な教育活動への支援体制が構築されている。

学校応援団の活動をとおり、保護者や地域の方に本校の教育活動を知ってもらうことができた。今後も学校応援団の方との連絡を密にし、互いにプラスとなる活動へと発展させていきたい。

(2) 地域の方の声

新しい体験として、本にシールを貼ったり、新聞バッグを作ったりしました。また、他のボランティアの方のおしゃべりも楽しく、リフレッシュできる時間です。また、図書室での子供たちの様子が見られてよかったです。(図書ボランティア)

元気にあいさつをしてもらったり、労いの言葉をかけてもらったりすると「やってよかった。」と思います。10年間活動しているので、子供の成長が見られることも楽しいことです。(防犯ボランティア)

2 活動内容の工夫

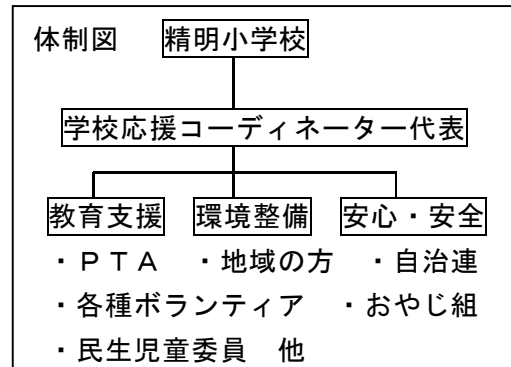
飯能市立精明小学校の実践 ～ 家庭・地域の連携による教育支援活動 ～

1 活動の目的・概要

本校は、今年度創立133年を迎えた歴史ある学校である。市街化調整区域に指定されており、約200年前の古地図に載っている民家そのまま残っている場合も多い。そのため「自分たちの学校」という意識を持っている方が多く、本校の教育活動に対して大変協力的である。

本校の学校応援団は、以下のような目的で活動を推進している。

- ・ 地域と学校とが連携を図り、学校教育を支援する体制づくりを推進する。
- ・ 精明地域を愛する心身ともに健康な子供たちを育成する。
- ・ 家庭及び地域の教育力の活性化を図る。



2 活動計画

学期	コーディネーターの会議等	応援団事業		
		教育支援関係	環境整備関係	安心・安全関係
1 学期	・ 図書ボランティア調整会議	・ 図書読み聞かせ 月2回（朝と昼） 【通年】		・ 登下校立哨【通年】 ・ PTA 下校パトロール
夏季 休業中		・ 夏休みプール監視	・ PTA美化作業 草取り、ペンキ塗り、校内掃除など	・ 夏休み 市内パトロール
2 学期	・ 図書ボランティア調整会議	・ 運動会協力 ・ 2年生町たんけん 保護者引率協力 ・ 仲よし運動会 種目指導協力 ・ PTA あげぼのまつり、 持久走記録会 保護者協力		・ PTA 下校パトロール
3 学期	・ 学校応援コーディネーター会議	・ 1、3年生昔遊び、 昔の生活学習の指導		・ PTA 下校パトロール

3 特徴的な活動内容

(1) 学習活動への支援



〔読み聞かせボランティア〕



〔水泳連盟の方々による指導〕



〔あけぼのまつりへの出店〕

(2) 学校環境整備への支援



〔除草作業〕



〔トイレ清掃〕



〔作業後のお楽しみ〕

(3) 安心・安全確保への支援

ア スクールガード・リーダーさんをはじめ地域の方々に、毎日立哨活動をしていただいている。

イ 下校時刻一覧表を各自治会に配布し、都合のつく時間に見守っていただいている。

ウ 各学期に20回程度、PTAの役員さんを中心に下校指導をしていただいている。

エ 夏休みの夕方(16:00位～)、3日間ほどであるが、PTAの役員さんと職員が同行して、地域の商店等のパトロールを行っている。

4 実施に当たっての工夫

- ・ 学校応援コーディネーターの方が、それぞれ各部門に所属し、学校応援団と共に活動するようにしている。
- ・ 打合せは学校が主導して行うようにしている。
- ・ 活動の留意事項について学校応援団に研修を行っている。
- ・ 年度末に学校応援コーディネーター会議を開催し、成果と課題を整理している。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・ 児童が意欲的に学習に取り組み、学習を深めている。
- ・ 学校、家庭、地域の連携が深まりつつある。

(2) 地域の方の声

- ・ いつでも参加できる訳ではないが、学校や子供のためになっていると思うと大変やりがいを感じる。
- ・ 登下校のときだけでなく、子供たちが挨拶をしてくれるので、とても嬉しい。自分が元気をもらっているような気分になる。

2 活動内容の工夫

狭山市立広瀬小学校の実践

～ 地域と連携し team HIROSE で、子供たちを育む ～

1 活動の目的・概要

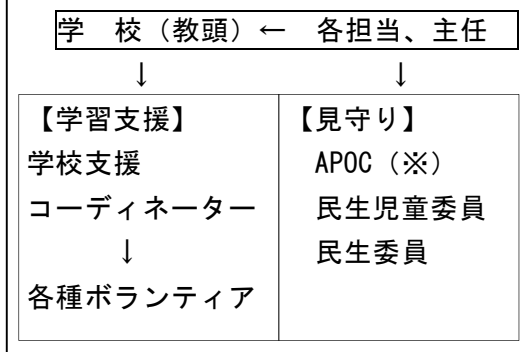
本校では「地域・保護者から信頼され、児童が誇りに思える学校」の実現を目指し、「居がい感」「自己肯定感」「達成感・成就感」を子供たちが味わい体感できるよう教育活動を行っている。

学校支援ボランティアの支援により充実した教育活動が展開されているとともに、このことが、本校の特色にもなっている。

学校支援コーディネーター2名は、学校からの依頼に基づき各種ボランティアとの調整等を行う。

※APOC…地域防犯ネットワークの略称。

体制図



2 活動計画

学校の年間指導計画に沿って、取組事業ごとに見通しを立てる。ボランティア主体の活動と学校からの要請による活動、地域との連携による見守りを行っている。

【ボランティア主体の活動】	【学校からの要望による活動】	【地域との連携による活動】
4月 学校支援ボランティアの募集 5月 学校支援ボランティア連絡会 ・ボランティアの概要説明 ・年間活動計画の確認 ・各分野のリーダーの決定 ・学校からの留意事項の確認 等	※ 要望により随時活動 ・学習支援 町探検、市内体育大会練習 ミシンボランティア 福祉体験、書初、九九 算数サポート教室 (夏季休業中3日間) 等	5月 APOC 役員会 6月 APOC 総会 ・青色パトロール 講習会の実施 ※年間を通じて活動 ・パトロール ・登校時の見守り ・下校時の見守り ・子ども110番の家スタン プラリーの実施 (冬季休業 中)
※ 通年の活動 ・図書：読み聞かせ、本の整 理 等 ・清掃：学校の美化に協力 ・環境：除草、剪定、落葉掃 き 等 ・帽子のゴムひもつけ		

3 特徴的な活動内容

(1) 学習支援

ア 学力向上と補習学習の目的で毎年夏季休業中の3日間、算数サポート教室を開催している。1年生から6年生までの多くの子供たちが参加している。ボランティアとして学校支援ボランティアに登録している方のほかにも、SSVC (※)、卒業生、保護者、子供の祖父



【算数サポート教室】

2 活動内容の工夫

母など多くの方に協力いただき、採点等のお手伝いをさせていただいている。

※SSVC…狭山市学校支援ボランティアセンターの略称。

イ 2年生の九九の学習の習熟を図るため、週に1度朝自習の時間に各教室にボランティアの方が入り児童の九九検定のお手伝いをさせていただいている。15分程度の活動だが、多くの子供たちが検定を受けることができ、達成感や成就感を味わっている。

(2) 学校環境整備への支援

ア 学校のフェンス沿いの除草や花の苗の植え付けなど、学校支援ボランティアの方が計画的に整備してくださっている。敷地内の草取りや落葉掃きは、ボランティアの方が都合の良い時間に来校し活動をしている。



〔フェンス沿いの花々〕

イ 昇降口清掃は子供たちの清掃活動とは別に、学校での用事をすませ、その足で昇降口掃除を15分程度行うなどボランティアの方のペースで活動をしている。

(3) 安心安全な学校づくり

APOCや民生委員が、登下校時間のみならず、児童の遊び等を気にかけて声をかけ日頃より見守っていただいている。

4 実施に当たっての工夫

- ・ ボランティアだよりは家庭数のみならず、学校だよりと同様に回覧版で地域のみなさんに読んでいただいているため、活動について理解が深まるとともに啓発にもなっている。
- ・ 学校支援ボランティアやコーディネーターとの連絡は、電話とFAXが中心で、時期、人数、方法など具体的にお知らせしている。
- ・ ボランティア主体の活動については、職員玄関（事務室の窓口）に活動記録表が置いてあり、来校時に活動時間と活動内容を簡単に記入できるようになっている。
- ・ 環境ボランティアに道具をすぐに貸し出せるようにするなど、事務室職員もすぐに対応できるようボランティアの仕組や活動内容をよく理解している。
- ・ 清掃ボランティア用の清掃用具庫があり、ほうきやちりとりが準備されている。
- ・ 図書ボランティアには、図書室の隣をボランティアの活動室として使用していただいている。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・ ボランティアの活動により、多くの方に学校の教育活動を理解・支援していただいている。学習面でも、子供たち一人一人に目が行き届き、安心・安全な教育活動が展開できている。また学習活動も保障され学力向上にもつながっている。
- ・ 地域の方と子供たちが顔見知りになるだけでなく、学校が地域に見守られていることを実感できる。

(2) 地域の方の声

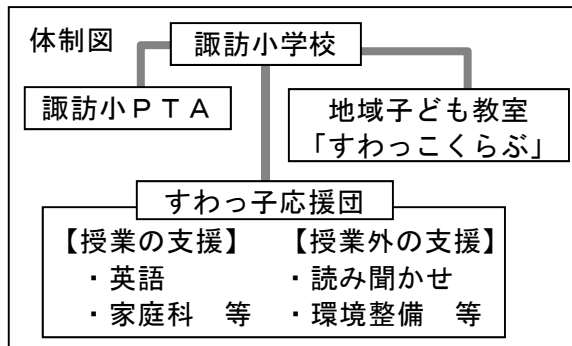
- ・ 子供たちの成長の役に立てれば嬉しい。学校の外で会っても、子供たちが顔を覚えてくれ、あいさつをしてくれる。
- ・ 子供の活動を間近に見られるので、楽しい。
- ・ ボランティアをすることが楽しい。

2 活動内容の工夫

富士見市立諏訪小学校の実践 ～ 「できるときに できることを 楽しんで」 ～

1 活動の目的・概要

諏訪小学校学校応援団「すわっ子応援団」の活動は、児童が日々生き生きと学べるように、学校の教育活動を支援することを目的としている。「できるときに できることを 楽しんで」活動となるように、無理のない範囲で行うことや、活動に参加した方の「楽しかった」といった思いを大切にしている。



2 活動計画

年間2回の応援団会議を行い、年度当初に活動計画を示している。また、活動計画以外でも必要に応じて募集をしている。

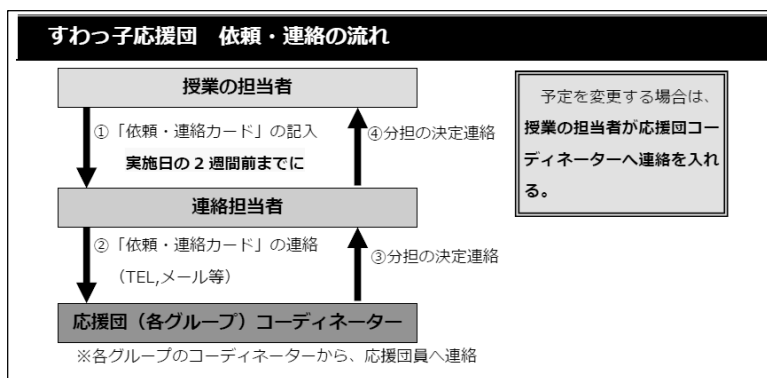
月	主な活動内容
年間を通して	・外国語（英語）活動の支援 ・読み聞かせ ・登下校時の見守り ・学校ファームの手入れ
5・6月	・家庭科の学習支援（裁縫、ミシン）
10・11月	・図画工作の学習支援（のこぎり、金づち、彫刻刀 等） ・家庭科の学習支援（ミシン）
12月	・書き初め指導の支援

応援団依頼の流れは以下の通りである。活動を依頼する際はそれぞれのコーディネーターに連絡し、調整を行っていただいている。

3 特徴的な活動内容

(1) 授業の支援

家庭科の授業では、ミシンを使用する学習の際に支援をしている。ミシンの糸通しや仮縫い等での確かな助言をいただき、児童は安心して学習できている。



[ミシン学習の支援]



[茶道体験学習]

2 活動内容の工夫

(2) 授業外活動の支援

朝の読み聞かせを年間で32回行っている。保護者や地域の方が読み手として来てくださり、児童も楽しみにしている。学級単位だけでなく、学年や複数の学級で行うこともある。



〔読み聞かせの様子〕

(3) 地域子ども教室（すわっこくらぶ）との連携

毎月1回、地域子ども教室（すわっこくらぶ）を実施しており、PTAや学校応援団も支援に当たっている。ボール遊びや昔遊び、工作などを行い、低学年を中心に多くの児童が参加している。



〔すわっこくらぶの活動風景〕

4 実施に当たっての工夫

学習支援に入る前に事前の打合せができればよいのだが、時間を確保することが難しい場合もある。そこで、年度当初に応援団登録者へ「すわっ子応援団マニュアル」を配布し、支援するポイントを示している。

2月には「ありがとう集会」を行い、すわっ子応援団をはじめ学校の教育活動に協力していただいている方を招き、児童から感謝の気持ちを伝えている。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

保護者だけでなく地域の方も多く応援団活動に参加していただいている。また、登下校の見守りだけではなく、様々な活動で支援をいただいている。応援団の方

との交流を通して、児童に「多くの人に支えられている」という意識が育まれている。

(2) 地域の方の声

- ・ 授業参観や学校公開日とは違った児童の姿が見えてよい。
- ・ 自分の子供が大きくなり、小学生と関わることが少ないので、学校応援団で小学生と関わることができて楽しい。今後も続けていきたい。

すわっ子応援団マニュアル

富士見市立鹿訪小学校

「学習活動の支援の仕方3つ」と「守っていただきたいこと1つ」

支援1

授業のポイントの繰り返し

教師が話した授業のポイントを繰り返して、児童に声をかけてください。

支援2

安全面での声かけ

支援3

作業のお手本

やって見せて、やらせてほめる

個人情報の厳守

児童の様子などを地域や家庭で話さないようにお願いします。

2 活動内容の工夫

ふじみ野市立三角小学校の実践

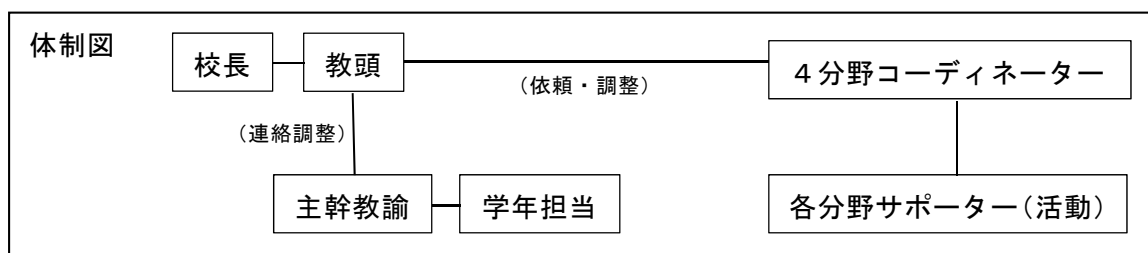
～ あったかな絆ではぐくむ「共育」 地域協働学校づくりを目指して ～

1 活動の目的・概要

本校は創立40周年を迎え、「明るいあいさつ 笑顔あふれる 三角小学校」として地域に愛されている。

学校教育目標「ゆめのある子・かしこい子・やさしい子・たくましい子」の具現化に当たり、地域コミュニティをつくり、ともに子供たちを育てていくことを目的としている。

活動としては、大きく「安全確保」「学習支援」「環境整備」「図書」の4分野において保護者や地域の方の協力をいただいている。



2 活動計画

月	活動内容
4月	主旨並びに年間活動計画の確認
4月～3月(年間)	安全確保の支援活動 防犯パトロール(登下校)
4月～2月(年間)	環境整備への支援活動(花の植栽・切り戻し・落ち葉掃き・栽培活動補助・わくわく畑)
4月～2月(年間)	学習への支援活動(読み聞かせ・校外学習引率補助・フォークダンス・書き初め・ミシン・学校行事補助)
3月	活動のまとめの会(成果と課題)

3 特徴的な活動内容

(1) 環境整備への支援活動

本校の特色ある体験活動の一つである「わくわく畑(16アール)」。1年生から6年生までが年間をとおして栽培活動を行っている。ボランティアの方に畑の栽培準備を年間通して支援していただいた。秋には、畑でとれたサツマイモで収穫祭を保護者協力のもと学校行事として行っている。



【わくわく畑での応援団活動】



【収穫祭で焼き芋をつくる】

2 活動内容の工夫

(2) 学習への支援活動

ア フォークダンス

本校では、5年生の林間学校を毎年7月下旬に行っている。林間学校では、子供たちの最大の楽しみである「キャンプファイヤー」が行われる。学年で盛り上がるフォークダンスの指導を支援していただいている。ただ踊る楽しさから本格的なダンスの魅力を皆で味わいながらフォークダンスを実施できている。



〔林間学校前に学校応援団の方からフォークダンス指導をうける〕

イ 読み聞かせ

読書活動の推進のための全学年対象の「読み聞かせ」並びに毎月「移動図書館ともしび号」が来校している。特に「読み聞かせ」では、子供たちに本の魅力を十分味わってもらうため、ボランティア同士の「読み聞かせ講習会」が行われている。



〔各クラスでの読み聞かせ〕

〔読み聞かせ講習会〕

4 実施に当たっての工夫

綿密な連絡調整を行い、各活動の実施をしている。「全てが子供たちの力に！」「家庭・地域のおかげで子供たちはぐんぐん成長しています」ということを、折に触れ支援してくださる方に伝えている。また、学校だよりや学校ホームページにおいて地域に発信している。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・ 学習支援活動により児童の学習への意欲・関心・態度が高まった。
- ・ 多くの手による学習支援活動で学習の成果が上がった。
- ・ 交流をとおして、人間関係が深まり地域の輪が広がっている。
- ・ 年間をとおして花いっぱい整備された環境の中で、潤いのある学校となっている。

(2) 地域の方の声

- ・ 子供が「わくわく畑」で収穫した野菜を喜んで持ち帰り活動の楽しさがわかる。
- ・ 毎回子供たちが熱心に「読み聞かせ」を聞いて楽しんでくれている。こちらも楽しい。
- ・ 学習中の子供たちの満足そうな表情に元気をもらっている。

2 活動内容の工夫

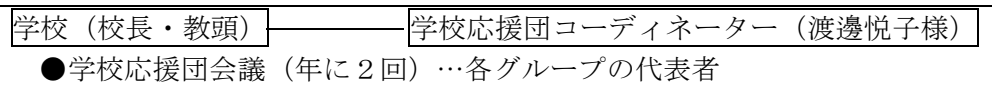
坂戸市立三芳野小学校学校応援団について

～ 学校・家庭・地域でのびのび育てるみよしのっ子 ～

1 活動の目的・概要

- (1) 家庭や地域の教育力を学校教育に積極的に生かす。
- (2) 開かれた学校づくりの一環として、地域に信頼される学校づくりを推進する。

体制図



- 環境整備支援…除草、落ち葉掃き
- 学習支援…本の読み聞かせ
放課後子ども教室
- 安心安全支援…登下校見守り隊
スクールガードリーダー
危険個所点検
安全パトロール

- 各学年の支援…
- 1・2年：昔遊び、野菜作り、サツマイモ
- 3年：安全マップ作り
- 4年：米作り、横沼太鼓
- 5年：家庭科ミシン、車椅子体験
- 6年：「大川平三郎」に学ぶ
家庭科ミシン

2 活動計画

年間をとおして行う、登下校の見守り指導や本の読み聞かせ活動とともに、下記の活動の計画を立て実践する。

月	学校関係者会議等	学校応援団事業		
		学習支援関係	環境支援関係	安全・安心関係
4	P T A総会・歓送迎会 (21日)	始業式・入学式 読み聞かせ(水曜日) 総合学習(各学年のゲスト ティーチャー、随時) 放課後子ども教室 (毎週火曜日)	北門横の道路の花壇 整備(市役所環境課) 学校ファーム整備 (土起こし、等) 草刈り、除草 資源回収①(21日)	情報交換会 登下校の見守り (通年) 通学路点検(毎学期) 不審者等緊急対応 (随時)
5	学校公開日①(13日)			
6	第1回学校評議員会(9日) 第1回民生児童委員会 (16日)	稲作体験・代掻き(1日) ・田植え(6日) 「大川平三郎翁」ゲスト ティーチャー (6年30日)	植木の剪定(8,9日)	
7	第1回コーディネーター会議(19日)			非行防止街頭キャン ペーン①
8		「大川平三郎翁」研修 会(30日)	親子除草(20日) ガラス清掃 樹木の剪定	安全安心(環境浄 化)パトロール① 避難所運営の研修 (31日)
9		運動会(16日)		スクールガードリーダー研修会
10		稲作体験・稲刈り・脱穀 1,2年昔遊び 2年町探検 4年リフレット作り 5年車いす体験		非行防止街頭キャン ペーン②
11	学校公開日②(4日) 校内音楽会 第2回学校評議員会		資源回収②(19日) 除草朝会	安全安心(環境浄 化)パトロール①
12	学校公開日③(2日) 持久走大会	校内持久走大会 4年横沼太鼓		

2 活動内容の工夫

1	学校公開日④(20日) 第3回学校評議員会	2年消防署見学 3年フィールドワーク 安全マップ		
2	第2回コーディネーター会議 感謝の会(21日) 13:15~13:40	学習発表会 特別支援学級 校外学習	ナデシコ・マリー ゴールド植え	
3				見守り隊協力者 打合せ会

3 特徴的な活動内容

(1) 学習活動への支援

- ア 生活科(昔遊び、さつまいも祭)
- イ 家庭科(ミシン指導、食育)
- ウ 総合的な学習の時間(田植え・稲刈り・脱穀指導、福祉体験)
- エ 特別活動(薬物乱用防止教室、交通安全教室)
- オ 社会(郷土の文化)

(2) 安全・安心への支援

- ア 登下校安全見守り隊
- イ 学校行事(運動会、持久走大会 等)のパトロール
- ウ 校外活動(生活科・総合的な学習の時間)の安全指導

(3) 環境整備への支援

- ア 校内除草
- イ 落ち葉掃き

(4) 放課後子ども教室との連携

地域の方がスタッフとなって「みよしの元気教室」を毎週火曜日に開いている。多くの子供たちが放課後、楽しいひとときを過ごしている。スタッフの方々は学期末に使用した教室を半日かけて大掃除して整理整頓された学校づくりに協力してくれている。



〔脱穀体験の様子〕



〔車いす体験の様子〕

4 実施に当たっての工夫

- ・ 「学校応援団だより」を発行して保護者・地域に配付し、校内にも学校応援コーナーを設置し掲示した。様々なご意見を参考に、少しずつでも「顔の見える」学校応援団にしていきたい。
- ・ 年間計画に応援団ボランティアの活動を位置付けることにより、スムーズに活動することができている。今後は、地域の人材リストやニーズに応える活動内容を整備して活用できるようにしていきたい。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・ 登下校の見守りや校外活動の安全指導等への協力により、事故もなく児童たちも安心して活動することができた。
- ・ 多くの地域の大人たちが児童と顔見知りになることで、地域のつながりの一助となっている。
- ・ 専門的な立場から、ゲストティーチャーとして授業に参加してくれることにより、学習効果が高まった。

(2) 地域の方の声

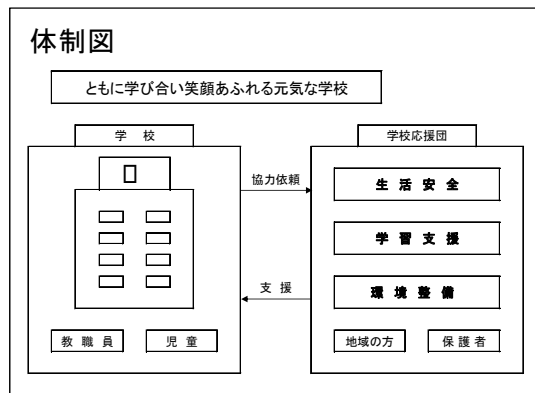
- ・ 「もっと、ボランティアの方のことを保護者・地域に情報発信していく必要があります。知っていただくことで、地域のつながりができてくると思います。」
- ・ 「ボランティア応援団の一人一人の顔が見えると、地域でのつながりが親密になり、あいさつも自然に交わせるようになっていくと思います。」

2 活動内容の工夫

鶴ヶ島市立長久保小学校の実践 ～ 家庭・地域とのつながりを更に深めるために ～

1 活動の目的・概要

活動の主な目標を組織活動の充実として学校応援団推進事業を進めてきている。保護者や地域の人材を導入し、児童の生活安全や学習効果の向上等、本校の教育活動の充実、また環境の整備を図り、児童と保護者・地域の方との結びつきを深めながら、校長の学校経営方針である「ともに学び合い笑顔あふれる元気な学校」の実現を目指している。



2 活動計画（活動内容）

- ・通年 読み聞かせ「ながぼん」 毎月第2・4木曜日 年間17回
- ・通年 児童の登下校の見守り 「犬のおまわりさん」「スクールガード（下校見守り隊）」
- ・通年 学校ホームページの作成・更新
- ・随時 樹木剪定・除草・花植え（環境ボランティア）
- ・随時 賞状の浄書
- ・5月 運動会のための「鶴ヶ島音頭」踊り指導
- ・6～9月 稲作学習（5年生 総合）の支援水田管理
- ・9月 環境整備（「長小クリーン大作戦」）、除草・グラウンドの側溝清掃
- ・10月 5・6年生 ミシン学習の補助
- ・10～11月 落ち葉掃き（月・水・金 昼の清掃活動の時間）
- ・10月 全校遠足児童引率支援
- ・10月・11月 校外学習引率支援
- ・10月 1年生 お年寄りとの昔あそび交流
- ・10月 飼育小屋の整備・鶏の爪の手入れ
- ・10月～2月 環境整備／花壇のペンキ塗り・観察池の清掃（委員会活動の支援）



〔田植え指導〕

3 特徴的な活動内容

- (1) 読み聞かせ（「ながぼん」）毎月第2・4木曜日 朝8：20～8：30 年間17回
各クラスを1～2名のボランティアが担当し、約10分間の読み聞かせを行う。読み聞かせの後、ボランティアの方は読んだ本など、読み聞かせ活動の集約を行っている。ボランティアの方は、本に親しんでもらおうと工夫をこらして読み聞かせをし、児童たちは集中して話を聞くことができている。ボランティアの方と児童が楽しく、心の交流もある時間となっている。
- (2) 学習の補助
ア **稲作学習**では、田植えから稲刈り・脱穀・もみすりまで、児童たちの学習の支援をすると同時に、除草や水の管理など、全般に渡る支援をしている。児童たちは、出来上が

2 活動内容の工夫

- ったお米を調理し、ボランティアを招いて収穫祭を行い感謝の意を伝えることができた。
- イ **ミシン学習**には、家庭への手紙と地域の回覧を通じてボランティアを募集し、各クラス6名前後のボランティアについてもらい学習することができた。児童たちは指導や援助を求められることができるため、学習が円滑に行えている。
- ウ **全校遠足・校外学習の引率**を支援してもらえたことで、児童たちの安全を確保することができている。また、ボランティアの方と児童たちの交流が深まっている。
- エ **委員会活動の支援**として、ペンキの塗り方の指導や、準備片づけなどの手伝いをしてもらっている。



【ミシン学習補助】

(3) 落ち葉掃きボランティア

ボランティアは期間限定で、保護者への手紙と自治会の回覧により募集している。毎回5名程度（多い日は10名近く）のボランティアが参加し、大量の落ち葉を掃除してもらい、きれいにしてもらっている。児童たちの清掃では危険が伴うため行うことが出来ない学校外周の落ち葉も、ボランティアの方の支援により、きれいに掃除してもらっている。

4 実施に当たっての工夫

学校応援団の活動が児童たちを支えていることを児童たち自身が理解し、実感できるように、できるだけ児童たちと実際にふれあう機会が多く持てるようにした。また、6月に「おせわになります集会」、2月中旬に「ありがとう集会」を実施した。学校応援団を始めとして民生委員・児童委員、交通指導員、北市民センターさわやか学級等の地域の方を学校に招待し、「よろしくお願いします。」「1年間ありがとう。」の気持ちを伝える機会としている。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・ 読み聞かせの活動は充実しており、児童たちも毎回楽しみにしているため、読書好きが増えてきている。
- ・ 学校応援団の方々が児童たちと一緒に活動することで、学校での教育活動の理解を深めることに繋がっている。
- ・ 教職員も、学習の支援に入っただいただいていることで、地域や保護者との連携や感謝の気持ちを実感している。

(2) 地域の方の声

印象深い活動は、飼育園芸委員会の子供たちと共同作業として花壇のペンキ塗りができたことです。先生からも「例年と違う活動が出来て良かった」と感謝の言葉をいただきました。子供たちが学校の環境に自然に興味を持ってくれるように、「楽しんでやっていることがみんなの学校を美しくする」そんな活動をしていきたいと思います。



【花壇のペンキ塗り】

2 活動内容の工夫

三郷市立丹後小学校の実践

～ 地域と連携し、「心」を育てる学校応援団の取り組み ～

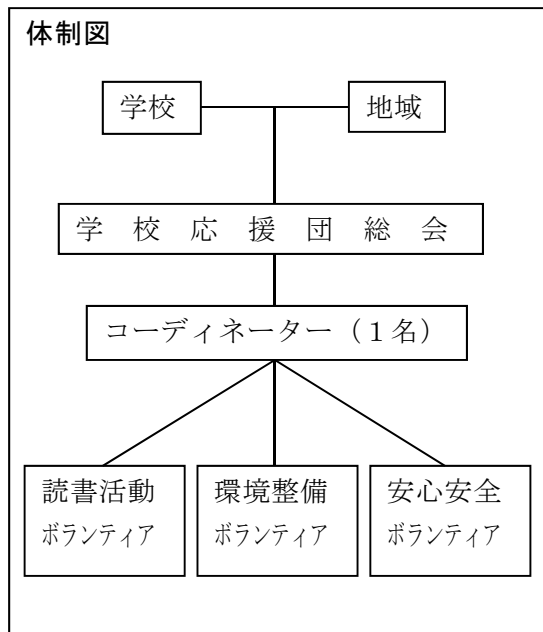
1 活動の目的・概要

昭和56年早稲田団地の建設とその入居に伴い開校し、今年37年目を迎える。周辺には三郷文化会館・三郷市立早稲田図書館等の文化施設を擁し、早稲田公園をはじめ、いくつもの公園があり、環境に恵まれた文教地区の中に本校がある。

本校は教職員相互が尊敬・協力・信頼・愛情の念を醸成し一丸となって教育活動を推進している。今年度の努力点として、「あいさつ(ありがとう等)がきちんとと言える」「いつも姿勢をきれいにする」「本をたくさん読む」の3点を掲げた。

保護者や地域の方と連携しながら進めている読書・安心安全・環境整備の学校応援団の活動は、児童が学校生活を送る上での絶大なる支援となっており、本校の特色の一つである。

体制図



2 活動計画

	読書活動	環境整備	安心安全	学校行事での交流
1 学期	4月 第1回 学校応援団総会			4月 1年生を迎える会
	読み聞かせ パネルシアター	校内環境整備 修繕	登下校見守り あいさつ運動 放課後パトロール(年6回)	11月 ふれあい集会
2 学期	補修・整理			12月 感謝のランチ会
3 学期	2月 第2回 学校応援団総会			2月 6年生を送る会

3 特徴的な活動内容

(1) 読書活動ボランティア

丹後小の読書活動推進のために、年10回、金曜日の朝読書の時間に読み聞かせを行っている。また、学校図書館司書と連携し、本の整理や補修を行っている。これに加えて、12月に低学年、3月に6年生、学期に1回全体を対象として、パネルシアター(お楽しみ会)を実施している。児童が本に親しむきっかけ作りとなり、丹後小の図書年間貸し出し冊数75,693冊(1人平均125冊・平成28年度)達成の原動力となっている。



【朝の読み聞かせ】



【パネルシアター】

2 活動内容の工夫

(2) 環境整備ボランティア

学校施設設備、備品等の修繕として、転落防止用窓枠ストッパーの作製、コンクリートたたき部分の塗装、校舎内の壁や扉等の塗装、プール入り口付近の棚の塗装等を行った。また、校舎内外を点検し、危険な箇所がないか確認するとともに、修繕が必要な場合にはすぐに対応している。



〔校内環境整備〕

(3) 安心安全ボランティア

児童の登下校時の見守り活動を行っている。4月には教職員と分担して地区ごとに1年生の下校に付き添い、自宅近くまで送り届けている。また、児童会と連携して「あいさつ運動」も行い、社会性を培う活動も行っている。加えて、年6回の放課後パトロールも、地域中学校区育成会と連携し、三郷市「夕やけチャイム」の時間に合わせて実施している。



〔あいさつ運動〕

4 実施に当たっての工夫

年2回の学校応援団総会と「1年生を迎える会」「6年生を送る会」を同日とし、それぞれの会の冒頭で「学校応援団に感謝する会」を設けて学校応援団の方の紹介をするとともに、児童から感謝の言葉を述べている。11月には「ふれあい集会」に招待して、児童と一緒に色々な活動を行い、12月には「感謝のランチ会」として給食交流を行っている。



〔1年生を迎える会〕

行事等を通じて学校応援団の方と児童が顔見知りになり、より活動が充実していくように工夫している。



〔ふれあい集会〕

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

読書活動、登下校の見守り、環境整備など、地域が学校の応援団となり手を携えることで、より豊かな教育環境づくりが構築できている。

(2) 地域の方の声

- ・ 行事等を通じ、学校へ足を向けやすくなった。
- ・ 多くの子供たちと関わる機会が増え、元気を貰えた。



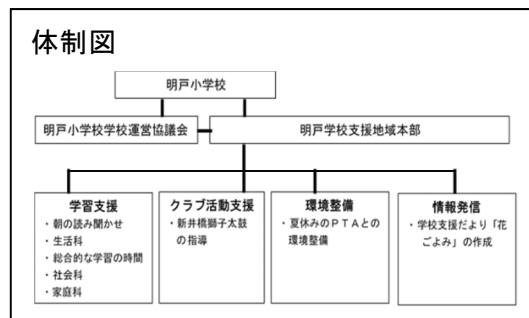
〔感謝のランチ会〕

3 地域に根差した活動

深谷市立明戸小学校の実践 ～ 学校・家庭・地域と連携した取り組み ～

1 活動の目的・概要

- (1) 「明戸学校支援地域本部」(学校応援団)の協力により、我が国の伝統文化や地域に親しんでいく態度や能力を育てる。
- (2) 学校・家庭・地域が連携し地域に根差した活動を推進することで、自他のよさに気づき、学校生活を充実させようとする態度を育てる。



2 活動計画

月	主な活動
4	本の読み聞かせ (通年)、新井橋太鼓クラブの指導 (4月～6月) 生活科、総合的な学習の時間 (野菜の栽培指導) (1～6年) (通年)
5	明戸学校支援地域本部総会
6	花壇の整備 (花はなプラン)
7	
8	環境整備
9	運動会、生活科 (小川の生き物) (2年)
10	花壇の整備 (花はなプラン)、家庭科 (ミシンの指導補助) (5・6年)
11	生活科 (秋のお祭り) (2年)、総合的な学習の時間 (伝統文化体験) (6年)
12	
1	総合的な学習の時間 (昔の道具の使い方) (3年)、生活科 (昔あそび) (1年)
2	
3	感謝の会、卒業式

3 特徴的な活動内容

(1) 新井橋太鼓クラブへの活動の支援

4月から9月の運動会までのクラブの時間に新井橋獅子太鼓保存会の方に、太鼓のたたき方や演奏の仕方をご指導いただいた。運動会当日に、全校児童や保護者、地域の方の前で披露した。



〔運動会の演奏の様子〕

(2) 総合的な学習の時間への学習支援 (ねぎ栽培)

明戸地区はねぎの栽培が盛んであることから、3年生の総合的な学習の時間にねぎを取り上げている。地域の方にご指導をいただきながら、4月に畝を作り、ねぎを植えることから始め、1月に収穫を行い、火鉢を使ってねぎを焼き食す。年間を通して、地域の方とねぎ栽培に関わることで、地域に対しての郷土愛を深めている。

3 地域に根差した活動



〔ねぎ植えの様子〕



〔ねぎ収穫の様子〕



〔ねぎ焼きの様子〕

(3) 総合的な学習の時間への支援（伝統文化体験）

6年生の総合的な学習の時間では、地域の方に伝統文化体験の学習支援をしていただいている。2日間行い、1日目は柔道と剣道のどちらか、2日目は茶道、華道、水墨画の中から1つ選択して体験をする。柔道や剣道では受け身や寝技の仕方、竹刀の振り方はもちろんのこと、礼節を尊重する態度をご指導いただいた。茶道では、お茶の作法や道具の名前、たて方の他、おもてなしの心を学んだ。華道では、四季折々草花を切り、花器に生けることで、命の尊さや礼儀作法を学んだ。水墨画では実際に描くことを体験し、鎌倉時代から伝わる禅の精神を学んだ。



〔茶道体験の様子〕

4 実施に当たっての工夫

どの支援を行っていただく際にも必ず、1か月前には支援の要請を出すようにしている。そのために、前年度どのような支援を行ってもらっていたかを各学年に知らせるようにしている。また、支援を要請する学年は必ずコーディネーターと打合せをするようにし、学年の指導の意図に応じた支援を行ってもらえるようにしている。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・ 明戸学校支援地域本部のコーディネーターの方が毎回来てくださり、一緒に支援を行っていただいたので、計画、実施の面で大変助かった。
- ・ 地域の伝統文化や産業を調べたり、体験したりすることで、自分の住んでいる地域により興味関心を持つことができた児童が多い。
- ・ 明戸中学校でも新井橋獅子太鼓を体験するので、地域の伝統芸能を守り、受け継いでいく一助になっている。

(2) 地域の方の声

明戸学校支援地域本部は発足から8年間「出来る時に出来ることを、楽しく」のスローガンにて支援しております。指導者が高齢となってきましたが、頑張っております。児童のクラブ活動では新井橋獅子太鼓保存会の方に練習をお願いしています。ボランティアのみなさんはお勤めをしている方がたくさんいますが、獅子太鼓の継承をしていくために仕事のやりくりをして指導していただいております。今年も運動会には立派な発表が出来ました。保護者の皆様も驚かれたことと思います。私も支援する者として、喜びとともにありがたく思います。(明戸学校支援地域本部長)

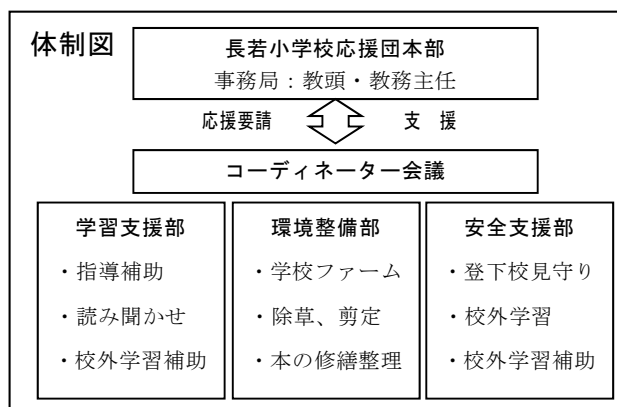
3 地域に根差した活動

小鹿野町立長若小学校の実践

～ 地域の環境を生かした特色ある学校文化の創造 ～

1 活動の目的・概要

本校では、「喜んで登校し、満足して下校する学校」を目指す学校像として掲げ、児童が生き生きと活動する学校、家庭や地域社会から信頼される学校、安心・安全で美しく整えられた学校の実現を図っている。学校応援団をはじめ、家庭や地域の皆様の支援や協力をいただき、地域の教育力を生かした学校と地域が一体となった教育活動を実践している。



2 活動計画

名 称	活 動 内 容
コーディネーター会議	年間の学校応援団の活動について計画や調整を行う。
学習支援ボランティア	総合的な学習の時間を中心に、体験的活動の支援を行う。
読み聞かせボランティア	第1・3木曜日の朝学習の時間を使って、各学級で本の読み聞かせを行う。
図書支援ボランティア	毎月1回、図書支援員とともに読書活動の充実に向け、本の修理や図書室の環境整備に取り組む。
安心・安全ボランティア	横断歩道や見通しの悪い交差点等で、児童の登下校を見守る。

3 特徴的な活動内容

(1) 浮き実取りからわら細工までの稲作体験

学校応援団の方の指導のもと、高学年を中心に全校児童で米作りを行っている。5月の浮き実とりから始まり、田植えや稲刈りは高学年が手本となり、低学年にやり方を示し、一緒に活動している。

11月25日には、収穫感謝祭を行っている。指導者の方とともに、1年間の米作り活動を振り返り、ご指導いただいたことに対する感謝の手紙を渡した。また、保護者ボランティアの皆様に、収穫した新米でおにぎりをつくっていただき、全校児童で試食した。同月29日には、5・6年がしめ縄、リース、草履などの「わら細工作り」を行い、米作りの1年が終了した。作った作品は、毎年1月に開催している長若地区文化展に出品して、地域の方に披露している。



〔浮き実取りの様子〕



〔稲刈りの様子〕

3 地域に根差した活動

(2) 広範囲にわたる通学区域の登下校の見守り

15人のスクールガードを中心とした登下校の見守り活動を行っている。

近年、不審者の情報が多くなり、保護者から心配の声も多く寄せられ、職員のパトロールだけでは安心・安全を維持できない状況となっている。

そこで、本校では、年度当初、地域・保護者に対してスクールガードの募集を行い、県より委嘱されたスクールガード・リーダーを中心として、登下校の見守り、長期休業中の学区内のパトロールを行っている。中には、学校まで付き添って下さる方もおり、児童の安全確保の充実につながっている。スクールガードに限らず、お孫さんの安全のためとして付き添いをして下さる方もおり、地域ぐるみで児童の安全確保を図る体制が確立している。

4 実施に当たったの工夫

お世話になっている学校応援団を含めた地域の皆様に対して、「地域ありがとう集会」を開催している。自分たちの生活が、地域の様々な人によって支えられていることに気づき、感謝の思いを伝える場となっている。

集会は、学校公開日でもある11月1日に、保護者をはじめ、登下校の見守り、米作り、読み聞かせ、放課後子ども教室等で温かい支援をいただいている地域の方をお招きし、本校の体育館にて行った。

主な内容は、「校内朗読会」「全校合奏」である。児童は、練習から真剣に取り組み、当日も、それぞれの学年の特色を生かした、朗読を発表したり、全校が一つにまとまった合奏を披露したりできた。学習や生活を支えてくださる方に対して、感謝の思いを一生懸命伝えようとする児童たちの姿を見ていただくことで、学校応援団の皆様の達成感や今後の活動への励みにつなげていただけるよう工夫している。



【感謝の会の様子①】



【感謝の会の様子②】

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

様々な学習場面や登下校の見守り等、地域の方と交流を持つことで、児童は自分たちが地域と深く関わっていることを実感し、たくさんの支援を受けていることに感謝の気持ちを覚えている。また、教師の力だけでは実現できない貴重な体験を児童にさせることができ、学習効果の向上にもつながっている。何よりも、学校と家庭・地域との連携が深まり、地域の皆様の支援のもと、地域に根ざした教育活動が展開できている。

(2) 地域の方の声

- ・ 子供たちが元気に明るく活動する姿が励みになっています。
- ・ 活動を通して、学校に対する理解だけでなく、保護者同士の連携も深めることができました。
- ・ 通学班の班長が下級生の面倒をよく見えています。
- ・ 今後も、あいさつや安全な自転車の乗り方について更なる指導をお願いしたい。

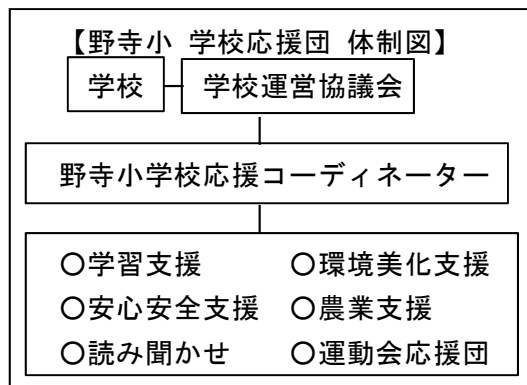
4 学校運営協議会との連携

新座市立野寺小学校の実践

～ コミュニティ・スクールを通じ、地域とともにある学校応援団 ～

1 活動の目的・概要

本校の学校応援団は、コミュニティ・スクールを通じ、学習指導への協力・支援、学校環境整備への協力・支援、児童の安全確保への協力・支援、児童の登下校等の安全確保を通して、保護者・地域・学校が共に連携して学校教育活動を一層充実し、児童の育成を図っていくことを実践のねらいとしている。



2 活動計画

月	活動内容
通 年	学習支援（保護者学級補助・学生ボランティア・クラブ指導等）
通年・随時	環境美化支援（花壇づくり・除草・エアコン掃除・カーテン補修等）
通 年	安心安全支援（防犯パトロール等）
通 年	農業支援（米作り・野菜作り等）
毎週火曜日	読み聞かせ（各学級にて読み聞かせ）
5月最終週	運動会応援団（借用テント運搬・テント組み立て等）

学校と学校応援団、学校応援コーディネーターとの打合せについては、活動の1ヶ月前に学校にて行うようにしている。また、研修会については、年4回の学校運営協議会において、学校で取り組むべき諸課題について協議し、研修を重ねている。

3 特徴的な活動内容

(1) 学習支援の活動

ア 全学級副担任制度による保護者学級補助

コミュニティ・スクールの一環として、保護者による全学級副担任制度を行っている。保護者が都合の良い時間に来校し、学級に入るといったものである。丸付け等の学習支援が中心だが、児童を見守る目が多くなることで、いじめの早期発見を図ることもできた。



〔保護者学級補助〕

イ 学生ボランティア

市内の十文字学園女子大学との連携により、教職課程を受講している学生が、ボランティアとして学習支援等に携わっている。また、ピアサポーター制度として、支援の必要な児童を中心に、大学生が学習支援等に携わっている。

(2) 環境美化の活動

ア 花壇づくり

地域ふれあい連絡協議会による花壇の花の植え替えを年4回行っている。2年生の児童と共に行った。

4 学校運営協議会との連携

イ 掃除・補修

夏と冬の2回、児童の大掃除の時間帯に学校応援団作業として、エアコンのフィルター掃除、カーテンフック部のほつれの補修、側溝掃除を行った。大がかりな作業で、教室及び運動場の環境が整った。



〔カーテン補修〕

(3) 農業支援の活動

ア 米作り

本年度、校地内に水田を作り、5年生を中心に稲作を体験した。地域の学校応援団の方から、水田作りの工事、田植え、刈り取り、脱穀まで指導を受けた。田植えの際には保護者も集まり、児童の支援に当たった。



〔田植え指導〕

イ 野菜作り

学校教育農園の野菜作りについて、地域の学校応援団の方から指導を受けた。土作りから収穫まで、毎日のように農園に来ては見守りをさせていただき、大変助かった。

(4) 運動会応援団

ア テント借用及びテント組み立て

5月下旬に行われる本校の運動会では、本部席周辺のほか、児童の熱中症対策として、全ての児童席にもテントを張っている。そのため、町内会連合会から20張以上のテントを借用・運搬し、組み立てなければならない。この一連の作業を学校応援団が担っている。運動会後は、保護者だけでなく、学校応援団の方も残り、皆で一斉に片付け作業をするため、短時間で済ませることができた。



〔運動会児童席テント〕

4 実施に当たったの工夫

学校応援団の方と管理職との打合せをする際には、給食を食べながらのランチミーティングを行っている。また、来校の際には、授業を自由に参観することができるようにしており、学校の垣根を低くする工夫を行っている。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

コミュニティ・スクールに指定されたこともあり、保護者や地域の方の学校への関心が高まっている。特に「全学級副担任制度」において、日常の授業サポートが一層充実しており、教職員からは、学力定着や負担軽減の面から好評である。また児童からは、保護者、地域の方に勉強を教えてもらい嬉しかった等、喜びの声が多数寄せられている。

(2) 地域の方の声

学校応援団の活動ではあるが、子供の大掃除の時間に子供の様子を見ながらカーテン補修ができ、楽しくできた。子供のそばで子供のための活動ができるということが、ボランティアの方の励みとなっている。今後、さらに活動の活性化を図るためにも、地域とともにある学校づくりを目指していきたい。

5 学校・地域の団体等との連携

和光市立第三小学校の実践

～ 地域の教育力を活用した「楽しい授業の実践」 ～

1 活動の目的・概要

今年度の目指す学校像は「楽しい授業・わかりやすい授業の実践により、基礎・基本の確実な定着を図るとともに学校・家庭・地域の絆を強固に地域に根ざした学校の構築を目指す」を掲げ、教育活動に取り組んでいる。その中で特に子供たちにとって「わかる授業」「楽しい授業」を展開していくために地域の教育力を活用していくことはとても重要である。そこで、本校では、毎年様々な教育活動に多くの外部の力を得て実践し成果をあげている。

2 活動計画

(1) 安心・安全な学校づくり

- ア 毎日の登下校の見守り隊及び保護者の方々による通学路の安全確保（毎日）
- イ 校外学習における引率補助の協力（通年）
- ウ 学校行事における安全確保（運動会・夏祭り・作品展・校内音楽会等）

(2) 学習支援を中心に「楽しい授業」「わかる授業」の実践

- ア 学習支援ボランティア（家庭科・道徳・学級指導・社会・総合・読書等）
- イ 体験的活動の指導者（学校ファーム・球技・将棋・読み聞かせ等）

(3) 校地内の環境整備及び修理修繕

- ア 年二回の校庭の除草作業・剪定作業
- イ 校舎内の修理修繕（ペンキ塗り・柵の制作・砂場の制作・ドアの修繕等）

(4) 事前の打合せ

- ア コーディネーターは、PTA会長が兼ねていることもあり、来校した際に随時学校の要望を伝え依頼している。
- イ 事前に協力者の数が必要な場合は、手紙・配信メール等を活用し協力を依頼している。
- ウ 依頼者との事前打合せを実施している。

3 特徴的な活動内容

(1) 課業日以外で、様々な体験活動事業を企画・運営・実施

「おやじの会」が中心となり、日頃仕事で培った技術や知識を体験活動をとおして子供たちに伝え、キャリア教育の推進を図っている。「おやじの仕事であそぼ」「どんなあそびができるかな?」「プレーパークであそぼ」等の企画を考え指導者は全て「おやじの会」のメンバーで構成し、子供たちの呼びかけや当日の司会・運営に取り組んでいる。この企画は、毎年内容や中心的な役割を担う人を変え実施している。

(2) 読書活動の推進を図る取組

毎週月曜日の朝はボランティアによる読み聞かせを実施している。この読み聞かせは、地域にお住まいの方で構成している「あめんぼの会」と本校の保護者のボランティアとの合同企画で実施している。今年度は初めての取組として、多目的室を活用して各学年のブロックごとに読み聞かせ会をロングの時間帯で実施した。これには管理職も役割をいただき一緒に参加した。ボランティアの方は、発表を前に何回も学校に足を運びリハーサルを重ね発表に備えていた。

5 学校・地域の団体等との連携

- (3) 総合的な学習の時間や社会科の授業等に専門的な人を招いて授業を実践
- ア 総合的な学習の時間では、近くの専業農家さんを招いて、米作りの工程を一から体験をして最後の収穫まで行い、そのお米で保護者の方と一緒に子供たちがおにぎりを作り試食する活動を実施している。
 - イ 学級活動では、学校歯科医を先生に「歯の健康・磨き方」を実際に体験し、歯の大切さを改めて感じ、日々の歯磨き指導に役立てている。
 - ウ クラブ活動では、将棋連盟の方やバトミントンの指導者を招いて子供たちが一緒に活動を展開している。

4 実施に当たっての工夫

- (1) 地域住民とのネットワークづくり（PTA会長の情報を基に組織づくり）
- ア 地域住民の一人であるPTA会長の地域力を活用して幅広い人材バンクをつくり、学校のニーズに応じて地域の方にご支援をいただいている。
 - イ 積極的に地域の行事に参加し交流を深め、豊富な人材の発掘をしている。
- (2) 定年を迎えた人が多く、事前会議・打合せの日程の調整は比較的順調に行うことができることから、そのようなシニアの世代の方をターゲットにしている。



5 成果と地域の方の声

- (1) 成果
- ・ 子供たちにとって専門的な知識や技術をもっている方から教えることは嬉しいようで、活動している子供たちの姿はいつも生き生きしている。そして、教えていただいた方に対する感謝の心の醸成にも大きな成果が表れている。
 - ・ 学校応援団の活動は、学校の特色を示す一つの方策であることから、地域の方に情報を伝えることで学校に対する評価が変わってきた。
 - ・ 教員にとっても外部の教育力を活用することで学ぶことも多く、自己教育力の向上に大きく役立っている。
- (2) 地域の方の声
- ・ 子供たちの活動する姿を見ることで感動することも多く、より一層子供たちのために役割を果たしたいという強い気持ちを持った。
 - ・ 地域の教育力を活用する為、より一層人材発掘を進めて子供たちの役に立ちたい。
 - ・ 支援いただいた方からの意見を聞き、気持ちよく子供たちのために力を貸していただけるよう学校とのパイプ役を果たしていきたい。

5 学校・地域の団体等との連携

東松山市立市の川小学校の実践

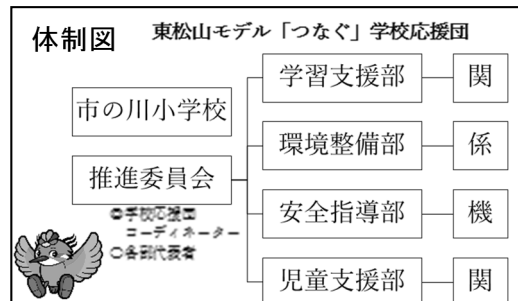
～ 主体的・対話的で深い学びで未来を切り拓いていこうとする児童の育成 ～

1 活動の目的・概要

本校の教育活動の要としているキャリア教育のねらい「基礎的・汎用的能力」の育成を目指すために、学校応援団を中心として、家庭や地域、異校種、関係機関等と連携する。そうすることにより教育活動の充実を図り、学校力を高め、児童の学びに向かう力を育て、児童の学力や体力の向上を図ることを目的とする。

主な研究の概要は、次の3点である。

- (1) 「いいあいさつ いい笑顔」の取組を行い、コミュニケーション能力を育成する。
- (2) 「課題対応能力」の育成のために、主体的・対話的で深い学びの授業改善を行う。
- (3) 「キャリアプランニング能力」の育成のために、学校応援団等との連携を図る。



2 活動計画

- (1) 年間計画に基づいた学校応援団の計画、立案、募集
- (2) 学校応援団会議での活動の計画と実施計画の検討
- (3) 学校応援団による活動の効果の検証と課題の把握



〔学校応援団運営会議〕

3 特徴的な活動内容

- (1) 学校応援団とともに「いいあいさつ いい笑顔」、「止まってあいさつ・振り返ってあいさつ」の取組
立ち止まってあいさつをすることにより、コミュニケーションが取りやすくなる。また、横断歩道を渡った後、振り返ってあいさつをすることにより地域の方との交流や安全の確保ができる。



〔200名以上の見守り隊〕

- (2) 主体的・対話的で深い学びの授業実践

学校応援団の協力を得て、主体的・対話的で深い学びを学習過程に位置付けた「題材を通した授業づくり」の授業実践をする。

ア 生活科における授業実践

第2学年 「もっと知りたいまちのこと」

- ・学校応援団コーディネーター・キャリア教育支援リーダー
- ・学区内で金属加工業を営む伊藤光廣氏
- ・小学生の頃の算数や理科、図工の学習を仕事に役立てた講話



〔楽しく勉強することの大切さ〕

イ 国語科における授業実践

第3学年「すがたをかえる大豆」学習のまとめとしての豆腐づくりを行った。大豆の変化を見た目や味、香り等実感をもって学習することができた。

- ・学校応援団：豆腐製造を営む渡邊一美氏



〔大豆がすがたを変えた〕

5 学校・地域の団体等との連携

ウ 総合的な学習の時間における授業実践

第4学年「いろいろな職業について学ぼう」

「お話を伺いたい職業」についてのアンケート調査をもとにゲストティーチャーを招く。

・豆腐製造 ・警察官 ・動物園の飼育 ・スポーツ関係等

第5学年「福祉」について知ろう

社会福祉協議会や総合福祉エリアと連携し、講話を聴いたり、福祉体験を行ったりする。

「ふ：ふだんの く：くらしの し：しあわせ」



〔「福祉とは」の講話〕



〔車椅子の生活での挑戦〕



〔盲導犬との生活〕



〔総合福祉エリアの見学〕

第6学年 「日本の伝統文化を体験しよう」



〔箏体験〕



〔華道体験〕



〔和太鼓体験〕



〔茶道体験〕



(3) 「キャリアプランニング能力」の育成のための学校応援団や関係機関との連携
全校朝会による講話

- ・ 5月 「自分の得意なことを伸ばす」 中国ゴマ 木坂 倫久 氏
- ・ 6月 「東松山モデルつなぐ」から「命の大切さ」 東松山警察署 持田 菜穂子 氏
- ・ 7月 「疑問に思ったことを調べる」直径2mの和紙でできた蓄音機 吉水 励 氏
- ・ 10月 「本で広がる世界」 東松山市立図書館の方々のお話
- ・ 11月 「毎日の積み重ねの大切さ」インターハイ400m優勝 島田 愛弓 氏
- ・ 12月 「動物は生きている」 埼玉県こども動物自然公園園長 田中理恵子 氏
- ・ 2月 「小学校で身に付けたいこと」松屋フーズ人事総務部顧問 宮腰 智裕 氏

4 実施に当たっての工夫

- (1) 学校応援団コーディネーターを中心として組織的な取組を推進する。
- (2) 学校応援団と事前の打合せを行い、学習の目的、実施方法、時間等を確認する。
- (3) 児童の感想等から学校応援団との連携による成果と課題を明確にする。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

学校応援団と連携することにより教育活動が充実し、児童の主体的な学びを進めることができる。

家庭や地域の学校への関心が高まり、「地域の絆で子供を育てる」ことができる。

(2) 地域の方の声（伊藤光廣学校応援団コーディネーター）

児童と関わることにより、児童の頑張っている様子がよくわかる。学校応援団の参加者は、学校を応援することにやりがいと生きがいを感じている。



5 学校・地域の団体等との連携

毛呂山町立毛呂山小学校の実践

～ 地域の教育力を生かして ～

1 活動の目的・概要

【目的】

地域の人材や教育環境等を積極的に活用し、学校教育目標『明るく 強く 正しく』の具現化を目指す。

【概要】

(1) 学習活動への支援

- * 各教科・道徳・総合的な学習の時間のゲストティーチャー
- * 本の読み聞かせ
- * 学校行事・集会活動への支援
- * すくすくタイム・持久走大会の支援

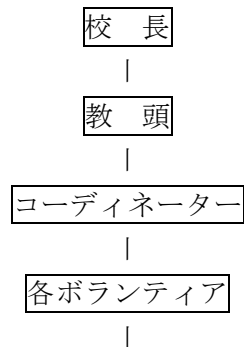
(2) 環境整備への支援

- * 花壇の管理・緑化活動
- * 稲作・菊作りの支援
- * 校庭・校舎の清掃
- * 各種施設の整備・充実
- * 除草作業への支援

(3) 安全・安心への支援

- * 登校指導や見守り
- * 通学路の安全点検
- * 不審者への対応「こどもをまもる家」
- * 児童の健全育成活動

体制図



- ・ 鯉幟上げ・稲作・菊作り・防犯教育
- ・ 読み聞かせ・町の歴史文化・保健指導
- ・ 昔遊び・スクールガードリーダー
- ・ 業前運動・資源回収・リサイクル活動
- ・ 親子除草・一斉下校の見守り・花壇整備
- ・ 町探検の見守り・防犯パトロール（ゆず）

2 活動計画

期日（月）	学習支援	期日（月）	環境整備
4月	校庭鯉幟上げ	6月 11月	資源回収
5月・9月	田植え・稲刈り（5年総合）	7月 11月	花壇環境整備緑化支援
6・7・8・9・10	菊作り（町菊花会）	8月	PTA 親子除草
7月	防犯教育（スマホに潜む危険）	毎月	リサイクル活動
毎月	お話会（業前学習）	期日（月）	安全の見守り
6月・10月	町の歴史文化学習（全校朝会時）	年間	安全ボランティア
10・11・12月	埼玉医科大学学生（保健指導）	6月	2年生町探検
12月	昔遊び（生活科）	毎月	一斉下校
12月	防犯教育（スマホに潜む危険）	12月	持久走体大会伴走 （毛呂山ランナーズ）
毎週	業前運動（朝マラソン） （毛呂山ランナーズ）	期日（月）	防犯
		年間	防犯ゆず学区パトロール

5 学校・地域の団体等との連携

3 特徴的な活動内容

(1) 稲作体験（5年生）総合的な学習の時間

地域で農家を営む方の水田を借用し、田植え体験・稲刈り体験を行った。



〔田植えの様子〕



〔稲刈りの様子〕

(2) 埼玉医科大学の医学生による保健指導（全学年）保健指導

近隣の埼玉医科大学の1年生と連携し、「早寝・早起き・朝ごはん」や「感染症予防」のテーマで、保健指導を実施した。



〔早寝・早起き・朝ごはん〕



〔感染症予防〕

(3) 昔遊びの会（1年生）生活科

町の高齢者支援課が世代間交流事業の一環として行った。児童とその祖父母が昔遊びの会を開き、一緒に楽しく遊びながら、交流を深めた。



〔始めの会〕



〔おはじき〕

4 実施に当たっての工夫

- ・ 教頭や担当者がコーディネーターや各ボランティア団体の代表者と連絡を密に取り合い、教育活動への参加がスムーズにできるように調整した。
- ・ 3学期には、1年間お世話になった方を招いて「感謝の会」を開催し、児童や教職員の感謝の気持ちを表している。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

児童は、地域の魅力ある人や文化や自然に出会いながら、学ぶことができている。地域人材が学校に入ることによって人と人との絆も芽生えている。

また、地域の方の力で教員だけでは行き届かない環境整備や登下校の見守りを行うことで、児童の安全確保ができている。

(2) 地域の方の声

「子供たちの元気をもって私たちも元気になれる。」「子供たちと町で会ったときに声をかけてもらえて嬉しい。」「普段遊ばない子供たちと一緒に遊べて楽しかった。」といった感想が寄せられている。

5 学校・地域の団体等との連携

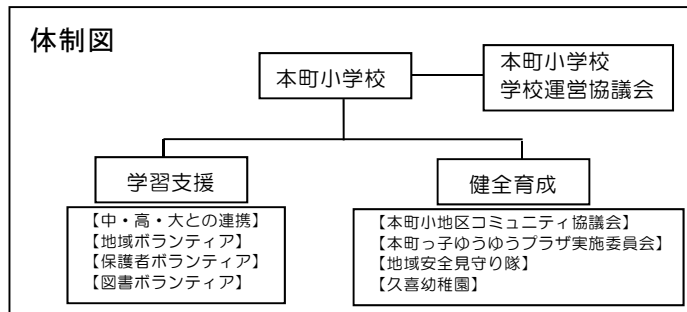
久喜市立本町小学校の実践

～ 幼保小中高大、そして保護者や地域と連携し、地域に根ざした特色ある学校 ～

1 活動の目的・概要

「よく学び なかよく遊び 明るく元気」の学校教育目標のもとに、保護者や地域の教育力を積極的に学校教育に活用するため、学校応援団との連携を深めている。

また、幼保小中高大と連携した特色ある学校づくりを推進している。



2 活動計画

		期日	活動内容
学習支援	中学校・高校・大学との連携	5月 夏休み中 随時	○中学校陸上部によるデモンストレーション ○高校生・大学生によるプール指導・授業支援 ○大学生による定期的な授業支援
	図書ボランティア	月曜日 随時	○おはなし会 ○ブックトーク ○図書室や学級文庫の整理等 ○ぬいぐるみおとまり会の実施
	地域ボランティア	随時 2月	○敷地内の環境整備 ○地域学習でのお手伝い ○昔遊び体験
	保護者ボランティア	校外学習 9月 11月	○校外学習における児童の安全確保 ○家庭科実習補助 ○持久走記録会 監察のお手伝い
健全育成	本町小地区コミュニティ協議会	5月 9月	○PTA除草のお手伝い ○本町っ子子ども祭り開催
	本町っ子ゆうゆうプラザ	毎週月曜日 土曜日	○ゆうゆうプラザの実施 企画・運営
	地域安全見守り隊	随時	○子どもの登下校時のパトロール
	幼稚園との連携	1月	○1年生と年長園児との交流 ・学校探検 ・教室体験 ・1年生企画の会

3 特徴的な活動内容

(1) 幼・小・中・高・大と連携した取組

ア 久喜中学校との陸上部との交流

今年度は、運動会当日、久喜中学校陸上部の生徒に協力してもらい、デモンストレーションとして、全校児童の前でリレーを走ってもらった。来年度は、陸上競技記録会に向けた練習にも加わってもらう予定である。

イ 中・高・大のボランティア補助教員の活用

夏休みのサマースクールでは、「久喜中学校」「埼玉県立久喜高等学校」「埼玉県立久喜北陽高等学校」「平成国際大学」「文教大学」に協力をお願いし、ボランティア補助教員としてかかわっていた。また、高校生や大学生は夏休み中のプール指導にも協力してもらった。さらに、



〔久喜中学校陸上部によるリレーのデモンストレーション〕

5 学校・地域の団体等との連携

大学生のボランティア補助教員には、夏休み以外の学習支援もお願いした。



〔ボランティア補助教員による授業支援(サマースクール)〕



〔大学生によるプール指導補助〕

(2) 地域との連携

ア 本町っ子ゆうゆうプラザ (放課後子ども教室)

月曜日の放課後の時間や土曜日を活用して、実施委員、サポーター、指導者を中心とした放課後子ども教室が行われている。全14講座から児童の希望を募り、今年度は全児童の約半数が参加している。月曜日の放課後30分は全教職員も講座を見学させていただいたり、実際に参加したりしている。また保護者にも受付サポーター、講座サポーター、下校サポーターなど協力をいただきながら、学校、家庭、地域が連携しながら地域総ぐるみで子供を育てる活動を行えるようにしている。

イ 本町小地区コミュニティ協議会主催による「本町っ子どもまつり」

今年度、本町っ子ゆうゆうプラザが10周年を迎え、その記念行事の一環として、第1回本町っ子どもまつりが行われた。当日はコミュニティ協議会の方だけでなく、ゆうゆうプラザ実施委員やPTA役員、地域の方々、そして本校職員も協力しながら、会の運営を行い、当日は300名以上の人数が参加し、楽しさと充実感にあふれ、大盛況の後、会を終えることができた。



〔本町っ子どもまつりの様子〕

4 実施に当たっての工夫

学校内の行事や様子を広く紹介するため、毎月の学校だよりを幼稚園、高校、大学へ一部ずつ配布している。さらに、学校のホームページは毎日更新している。また、地域主催の行事にも積極的に教職員がかかわっていきながら、互いに協力し合う体制づくりに努めている。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

夏休みの学習支援では、児童にとっては「個別支援の機会」が増加し、よりきめ細かな指導を受けることができた。また、様々な方とかかわりながら学ぶ機会によって、より多角的な視野に立ちながら児童の成長を見届けることができた。今後も継続していく。

(2) 地域の方の声

「私は、将来小学校の先生になりたいという夢をもっています。先生という職業につくには、大変だと思うのですが、今回の経験をして、『分かった』と言ってもらえることがうれしく、今までよりももっと『小学校の先生になりたいな』と思うことができました。」

(県立久喜高等学校生徒・ボランティア補助教員)

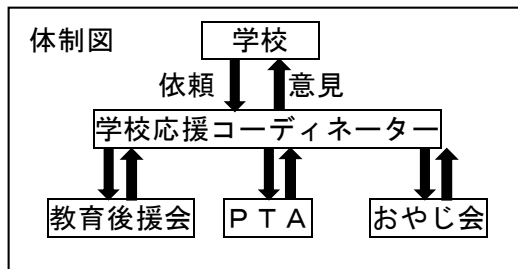
6 中学校における取組

川口市立元郷中学校の実践

～ 地域の教育力を生かして自主的な生徒の育成を ～

1 活動の目的・概要

本校は、学校教育目標を「自主的に取り組む生徒」とし、生徒の自主的・主体的な活動を重視している。学校教育目標の具現化に向けた取り組みの一つに、生徒会が中心となったボランティア活動がある。本校では、ボランティア活動を生徒会が呼びかけると、多くの生徒が自主的に参加を申し出てくる。この盛んなボランティア活動を地域と一体となって行うことで、今まで以上に充実した内容のボランティア活動ができ、学校と地域との連携を密にすることができると考えた。地域との絆を深めることと、ボランティア活動を更に充実させることを目的に、学校応援団活動を行っている。



2 活動計画

- 4月 コーディネーターとの打ち合わせ、PTA 執行部打ち合わせ
- 5月 教育後援会打ち合わせ、PTA 総会、幼稚園清掃ボランティア
- 6月 教育後援会総会
- 7月 学校評議員会（活動計画の説明）
- 9月 幼稚園清掃ボランティア
- 10月 元郷中まつり、幼稚園運動会ボランティア
- 11月 小学校あいさつボランティア
- 12月 学校枝おろし
- 1月 書き初め大会、地域清掃ボランティア
- 2月 小学校あいさつボランティア、学校評議員会（1年間の報告）
- 3月 1年間のまとめ

3 特徴的な活動内容

(1) 元郷中まつり

本校では、PTA が主体となって10月に「元郷中まつり」を開催している。模擬店やバザーで子供たちに楽しんでもらうための企画だが、このまつりに学校応援団である教育後援会も参加し、盛り上げていただいている。生徒にもボランティアでお手伝いを募集し、生徒と地域の方が一緒になって活動している。地域の方と触れ合える楽しいイベントに、毎年40～50名の生徒がボランティアに参加している。



〔元郷中まつりの様子①〕



〔元郷中まつりの様子②〕

(2) 小学校あいさつボランティア

本校では、年間6日間朝の登校時間に近隣の小学校へ行き、登校中の児童にあいさつをするボランティアを行っている。朝早く中学校に集合し、小学校まで歩いて行ってあいさつをするというボラン



〔小学校あいさつボランティアの様子①〕

6 中学校における取組

ティアだが、毎回100名を超える生徒が参加している。このあいさつボランティアには、学校応援コーディネーターに毎日参加していただき、地域の代表としてあいさつの大切さや地域の皆さんの声なども話してくださっている。



【小学校あいさつボランティアの様子②】

(3) 学校枝おろし

毎年1回日曜日に、PTAが主体となって校内の樹木の枝おろしを行っている。今年から、おやじ会（父親の有志による集まり）が参加し、校内のいたるところの樹木を剪定してくださった。この枝おろしのお手伝いとして、ボランティアの生徒を募集したところ、3年生を除いたにも関わらず88名の生徒が集まった。保護者と一緒に校内の清掃をしたり、剪定した枝を片付けたりと、楽しそうに活動でき、保護者や地域の方も喜んでくださった。



【学校枝おろしの様子】

4 実施に当たっての工夫

地域との連携を行うに当たり、何か新しい取組を作るというより、今ある活動をいかに地域との連携につなげていくか、という考えで行っている。ボランティア活動以外にも、書き初め大会に地域の書道教室の先生を講師にお招きしたり、学校保健委員会に地域の講師をお呼びしたりと、取組が広がっている。

様々な行事や取組を見直し、少し工夫することで、地域の方の活躍の場は作れる。コーディネーターと担当教員が連携を取りながら知恵を出し合い、無理なく進めることで学校応援団の活動が長く続くと考えます。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

ボランティアを通して地域と連携することで、生徒の心が一段と成長した。ボランティアに参加する生徒は年々増加し、思いやりのある生徒が育っている。地域の方からも「元郷中の生徒はあいさつが素晴らしい」とお褒めの言葉をいただくようになった。あいさつボランティアの時には、たくさんの生徒が朝早くから歩いて移動する姿を見て、地域の方が気軽に声をかけてくださるようになった。

「学校の敷居が高い」といっていた地元の町会長も、折有るごとに学校へ寄ってくださるようになり、地域の学校として信頼が深まってきていると実感している。

(2) 地域の方の声

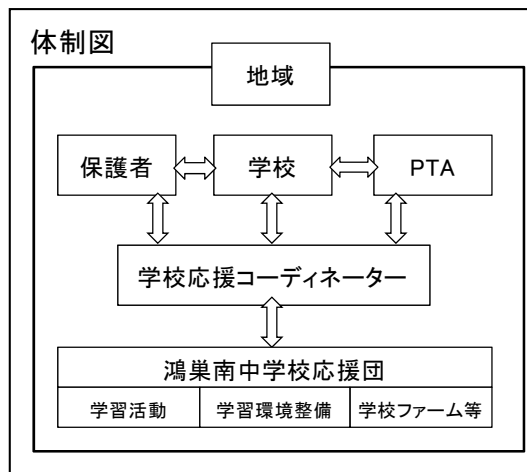
長距離走大会を見学した際、特別支援学級の生徒がゴールするとき多くの生徒が伴走する姿を見て、心が温まりました。優しく思いやりのある生徒が育っていることがボランティアの成果ではないでしょうか。（学校応援コーディネーター）

6 中学校における取組

鴻巣市立鴻巣南中学校の実践 ～ 信頼される学校づくりを目指して ～

1 活動の目的・概要

本校においては、平成22年に「鴻巣南中学校応援団」が設立され、現在、目指す学校像の「保護者・地域に愛され、誇りに思われる学校」づくりを推進している。この学校応援団は、学習活動、学習環境整備、学校ファームなどの分野で、学校・家庭・地域が一体となって生徒の健やかな成長を支援することを目指しており、代表の方がコーディネーターとなって学校との連携を図っている。



2 活動計画

月	活動内容
年間	登校指導（あいさつ運動）
5	花植え作業 除草作業
6	学校ファーム（サツマイモの植え付け）
7	除草作業
8	P T A親子除草作業
9	茶道、着付け、少林寺などの体験学習 学校ファーム（大根の種まき）
11	花植え作業 藤棚の剪定
2	花植え作業 学校ファーム（菜の花、カキナの収穫）
3	学校ファーム（ジャガイモの植え付け）

3 特徴的な活動内容

(1) 学習活動への支援

9月に本校の特色ある教育活動の一つである「体験学習」を、地域の各分野の専門家を講師として招聘し、茶道や着付けなど10数講座を開設して実施している。生徒は、普段できないような内容の学習にたいへん意欲的に取り組み、地域の方との交流を深めることができている。



〔茶道〕



〔着付け〕



〔少林寺〕

6 中学校における取組

(2) 学習環境整備への支援

学校応援団や保護者を中心に、定期的に学習環境整備として、花植え作業や除草作業を実施していただいている。



〔除草作業〕



〔花植え作業〕

(3) 学校ファーム

学校応援団の力をお借りして学校で借りている畑を耕し、野菜を育てている。主に特別支援学級の生徒が、土に触れ、収穫の喜びを味わうとともに、野菜の販売実習も行っている。



〔水やり〕



〔収穫〕



〔調理実習〕

4 実施に当たっての工夫

本校では、日頃から学校応援団の方と連絡を密に取ること、生徒に感謝の気持ちをもって学校応援団の方と接するよう指導すること、地域の活動に教職員や生徒が積極的に協力することを心がけている。

保護者・地域に愛され、誇りに思われる学校づくりを進めるためには、学校の教育活動を積極的に公開し、保護者や地域の方の理解と協力を得ることが大切である。この点において学校応援団の意義は非常に大きい。学校応援団の様々な活動を通して、生徒や学校の様子を見ていただくとともに、たくさんの支援をいただくことができれば、信頼される学校に近づいていけると考える。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・ 専門的な知識や技能を身に付けた多くの大人と接する機会となり、キャリア教育の一端を担うことができた。
- ・ 学校応援団の活動を通して、開かれた学校づくりが一層進んだ。

(2) 地域の方の声

元気にあいさつをされたり、子供たちと一緒に活動していると、たくさんの元気をもらうことができます。今後も都合がつけば、学校応援団の活動に進んで協力していきたいです。

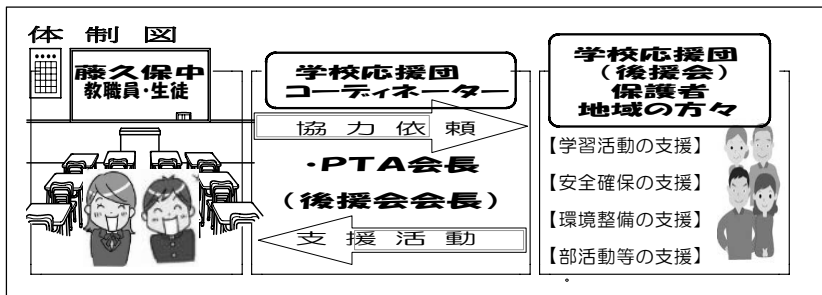
6 中学校における取組

三芳町立藤久保中学校の実践

～ 地域力を生かした教育活動の充実を目指して ～

1 活動の目的・概要

本校のめざす学校像は、『学びと笑顔に満ちた元気な学校』である。このことを実現するには、家庭・地域の理解と協力があってこそ、よりよい教育活動が推進できる。



本校では、学校応援団コーディネーター（PTA会長が兼任し、後援会会長と連携）を中心に学校応援団（後援会を含む。以下同じ）を組織し、学校と家庭と地域が一体となって、学校教育の活性化を図るとともに、家庭・地域の教育力の向上を目的としている。

2 活動計画

月	活動内容	通年活動
4月	学校応援団メンバー登録の募集（案内の発行と回収、集約）	・ボランティアによる活動 ①除草作業 ②落ち葉清掃 ③交通安全パトロール活動（登校時）
5月	学校応援団連絡会議（学校応援団コーディネーター・年間計画・活動内容打合わせ）、登録者名簿の作成	
6月	第1回学校応援団・PTA・教職員合同研修会	
7月	第1回アルミ缶回収	
8月	PTA・学校応援団・教職員・生徒合同除草作業	
10月	地域連携避難訓練参加（生徒・教職員・地域住民） 三芳町JAから寄付されたパンジーの花植え作業	
11月	西部地区学校・家庭・地域連携実践発表会参加	
12月	学習支援「保健体育（ソフトボール）」 第2回アルミ缶回収 第2回学校応援団・PTA・教職員合同研修会	
1月	学習支援「家庭科（調理実習①）」	
2月	学習支援「家庭科（調理実習②）」	
3月	第3回アルミ缶回収・校内修繕作業	

3 特徴的な活動内容

(1) 学習活動の支援（専門的な人材の活用）

保健体育のソフトボールの単元において、元ソフトボール実業団チームに所属していた地域の方に支援していただき、実演や専門知識、技術指導を行っていただいた。また家庭科の調理実習の授業では4名の学校応援団の方に協力いただくことで、安全に調理実習を行うことができた。



〔本格的なピッチングフォームの実演〕

6 中学校における取組

(2) 学校環境整備への支援

ア アルミ缶回収の活動

各家庭から出されたアルミ缶を回収し、学校に常設しているアルミ缶回収場所へ運ぶボランティア活動を行っていただいている。回収されたアルミ缶は定期的に専門業者が買い取り、その資金で校庭の凍結防止剤、改築した体育館のトイレマットなど、学校環境を整えるものを購入した。



【地域のアルミ缶を学校へ回収】

イ 花壇の整備、花植え活動、除草作業、落ち葉掃き等の活動

花壇の花植えや草刈り、落ち葉拾い、側溝掃除等、ほぼ毎日のように作業していただいている。



【JAから寄付されたパンジーの花植え】



【校地内の落ち葉拾い】

(3) 安全確保の支援としての活動

生徒が安全に登校できるよう、交通量の多い交差点や横断歩道、スクールゾーン付近で交通安全パトロールを行っていただいている。その際、生徒とあいさつを交わし、日常的に交流を深めてくれている。時には、教職員の目が届きにくい場所での生徒の交通マナーについて、ご指摘いただく場合もあり、生徒の安全確保や交通安全指導において、欠かせない活動を担っていただいている。

4 実施に当たっての工夫

毎月学校長が発行している学校だよりにより学校だよりにより学校応援団の活動の様子を写真付きで掲載し、学校応援団の活動が学校運営の支えになっていることを家庭と地域に積極的に発信している。このことにより、「これなら協力できそうだ。」と、年度途中でも新規で学校応援団に加入していただけるケースも出てきている。また学校応援団・PTA役員・教職員合同の研修会を開催し、親睦を深め、信頼関係の構築に努めている。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・ 学習支援では、よりきめ細やかな助言をいただき、専門的な知識や技能に触れることができた。特に調理実習では、包丁の扱い方については多くの生徒に目が行き届き、安全に実習に取り組むことができ、技術の習得につながった。
- ・ 花植えや落ち葉掃き、除草作業をとおし、学校の環境が整備され、明るく、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を過ごすことができた。

(2) 地域の方の声

- ・ 最初は戸惑いや不安もあったが、周りの方々や先生方の協力もあって、学校がきれいになったり、整備されるとうれしくなり、やりがいを持って活動することができた。
- ・ 我が母校でもあり、子供も藤久保中にお世話になっていたのも、喜んで学校応援団員を引き受けた。仕事の関係で頻繁に参加できないが、可能な限り協力していきたい。

6 中学校における取組

行田市立忍中学校の実践

～ 生徒・教職員・保護者・地域が一体となった活動 ～

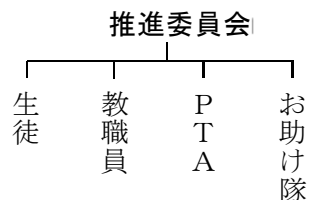
1 活動の目的・概要

本校は、行田市の中心部に位置し忍城に隣接する学校である。今年度開校71目を迎える伝統校であり、一時は生徒数1,000名を超える大規模校であった。しかし、現在の生徒数は350名となり、5年前と比べても100名近く生徒が減少している。

このため、効果的に学校を運営していくには、生徒・教職員・保護者・地域が一体となって、学校環境の整備や学校行事の支援等を行っていく必要がある。特に、保護者や地域の方には、本校の卒業生が多く、本校への愛着や思い入れが強いので、保護者や地域を巻き込んだ活動は重要であると考える。

そこで、年度当初に忍中学校の教育活動を支援する「お助け隊」への参加協力を呼びかける文書を配布し、お助け隊を組織した。そして、生徒・教職員・PTA・お助け隊が一体となって、学校教育目標の実現に向けて活動を展開していく。

体制図



2 活動計画

月	活 動 内 容
4月	春祭りの補導に参加
5月	「お助け隊」の追加募集
7月	第1回資源回収への協力 夏祭りの見守りに参加
8月第3土曜日	環境整備
9月	体育祭への協力
10月	音楽会への協力
11月第2土曜日	第2回資源回収への協力
12月	酉の市の見守りに参加
3月	卒業式への協力

3 特徴的な活動内容

(1) 環境整備

毎年8月の第3土曜日に半日かけて、校地内や外周の草取りや樹木の剪定などを行っている。生徒やPTAの方は草取りや運搬を、

PTA本部役員とお助け隊の方は、【地区ごとに集合し、作業の説明】 樹木の剪定等を、教職員は各ブロックへの作業指示や確認等を行っている。

この結果、整えられた環境の中で2学期及び体育大会が迎えられている。



【環境整備活動】

6 中学校における取組

(2) 学校行事への支援

ア 資源回収

7月と11月の2回資源回収を行っている。PTAの地区連絡員が中心となって22カ所の回収場所を指定し、お助け隊とPTAの方は各家庭からの資源の運搬を行い、生徒・教職員は回収場所で運搬された資源のコンテナへの積み込みを行っている。収益金はPTAの監査を受けながら教育活動の充実に役立たせていただいている。



〔資源回収〕

イ 体育祭や音楽会への協力

9月の体育祭、10月の行田市産業文化会館での音楽会では、生徒・教職員だけでなく、保護者やお助け隊の協力を得ながら運営している。受付や接待、駐車場・駐輪場での誘導などをお願いしている。



〔体育祭の接待〕



〔音楽会の受付〕

(3) 生徒見守り活動

お祭りの日を中心に、年に3回教職員とPTA本部役員、お助け隊で、生徒の見守り活動を行っている。時間は夜7時から1時間程度、生徒が安全に楽しめるよう声掛けをしている。



〔夏祭りの見守り〕



〔酉の市の見守り〕

4 実施に当たっての工夫

- ・ 活動内容については、初期の段階でしっかり話し合い、無理なく実行できるものに絞り、あまり手を広げすぎない。
- ・ 推進委員会において、計画を練るとともに、行事や取組ごとにしっかり評価・反省し、次年度に引き継いでいく。また、申し送り事項を参考にする。
- ・ 活動の様子を写真等、記録に残すとともに、学校だよりやPTA新聞等でも紹介する。

5 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・ 生徒数の減少に伴い、教職員数が毎年のように減少する中で、学校行事をスムーズに運営していくために、お助け隊は大変貴重である。
- ・ 学校行事等で、保護者やお助け隊が、駐車場係や受付等を担当していただけると、教職員が生徒の指導に集中することができ、行事等の質的向上につながっている。

(2) 地域の方の声

- ・ 環境整備や資源回収などで、生徒とともに活動することによって、生徒の明るい笑顔や元気な行動が見られてやりがいを感じる。
- ・ 学校に関わることで、母校の様子を知ることができ安心できる。また、生徒から「ありがとうございます」と声掛けられると、役に立てたのかなと、うれしさを感じる。

第3 「学校応援団」参考資料



感謝集会
伊奈町立小針小学校

平成29年度「学校応援団」の推進に係る調査結果概要

【組織づくり】

1 「学校応援団」の組織状況

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
A 「学校応援団」（学校を支援する組織）が組織されており、学校と「学校応援団」との調整役（教職員以外）がいる。	708	100%	355	100%
B 学校を支援する組織はあるが、学校と組織との調整役がない。	－	0%	－	0%
C 学校の教育活動の支援を行う組織がなく、調整役もない。	－	0%	－	0%
合計	708		355	

2 「学校応援コーディネーター」の担い手

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
現PTA関係者	289	40.8%	176	49.6%
元PTA関係者（PTAのOBなど）	283	40.0%	159	44.8%
町内会長・区長・自治会長など	164	23.2%	37	10.4%
学校評議員・学校運営協議会等関係者	162	22.9%	54	15.2%
学校支援グループの代表者	159	22.5%	40	11.3%
民生委員・児童委員	82	11.6%	21	5.9%
退職教職員	41	5.8%	11	3.1%
公民館等社会教育施設職員	20	2.8%	6	1.7%
商工会議所・青年会議所等の地元団体の関係者	12	1.7%	3	0.8%
企業関係者	7	1.0%	4	1.1%
行政職員	5	0.7%	3	0.8%

3 「学校応援団」が使用する専用の場所

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
余裕教室を転用した場所	197	27.8%	115	32.4%
校長室	25	3.5%	15	4.2%
職員室	3	0.4%	1	0.3%
その他	73	10.3%	31	8.7%

【活動内容】

4 学習活動への支援の内容

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
子供への本の読み聞かせ	637	90.0%	55	15.5%
授業などにおける、学習活動の支援	507	71.6%	75	21.1%
校外で学習する際の子供の付き添い、安全の確保	486	68.6%	22	6.2%
授業などにおける、学習内容に関する専門的な知識の話や技術・技能の教示	453	64.0%	84	23.7%
放課後や週末、長期休業日中における、宿題や補習などの支援	169	23.9%	58	16.3%

5 安心・安全確保への支援の内容

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
登下校時、通学路での安全確保	666	94.1%	175	49.3%
防犯パトロールを実施	473	66.8%	186	52.4%
登下校時、児童生徒の付き添い	447	63.1%	4	1.1%

6 学校の環境整備への支援の内容

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
除草作業や花壇などの整備	599	84.6%	268	75.5%
学校図書館の整備や図書の整理	375	53.0%	51	14.4%
樹木や生垣の手入れや剪定	370	52.3%	162	45.6%
校庭の遊具の整備や管理の補助	130	18.4%	16	4.5%
教室や校舎の修繕	126	17.8%	61	17.2%

7 部活動・クラブ活動への支援の内容

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
部活動やクラブ活動における、指導・助言や技術・技能の教示	169	23.9%	157	44.2%
部活動の大会などにおける、引率の補助	6	0.8%	47	13.2%

8 「学校応援団」に対するお礼の活動の設定

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
「感謝の会」を開くなど、感謝の気持ちを伝える場を設定	559	79.0%	40	11.3%
感謝の気持ちを表した手紙等の作成・贈呈	542	76.6%	72	20.3%
給食を準備し、児童生徒と一緒に食べる場を設定	259	36.6%	10	2.8%
感謝の気持ちを伝えるため、支援していただいている方の自宅や施設等を訪問	34	4.8%	7	2.0%
特にそのような機会は設けていない	36	5.1%	223	62.8%

9 「学校応援団」活動に係る会議の設置

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
設けている	488	68.9%	180	50.7%
今後、設ける予定である	84	11.9%	50	14.1%
設けていない	136	19.2%	125	35.2%

10 「地域人材」を活用した支援活動の結果という視点から考えられる成果

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
子供の多様な体験や経験が増加した	638	90.1%	215	60.6%
学習活動の支援により、子供の学習意欲が向上した	601	84.9%	124	34.9%
子供の地域への理解・関心が深まった	441	62.3%	180	50.7%
「地域人材」を授業等で活用する「よさ」について、教員の理解が深まった	418	59.0%	91	25.6%
専門的な知識や技術が授業に活用されることにより、授業の質が向上した	364	51.4%	70	19.7%
子供のコミュニケーション能力が向上した	321	45.3%	116	32.7%
学校や教員の負担が軽減された	260	36.7%	99	27.9%
子供の学力や体力が向上した	194	27.4%	47	13.2%
教員が授業や生徒指導などに、より力を注ぐことができた	101	14.3%	33	9.3%
不登校やいじめなど生徒指導上の課題が減少した	68	9.6%	34	9.6%

11 学校と家庭・地域との連携という視点から考えられる成果

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
保護者や地域の方の支援により、学校と家庭・地域との連帯感が強まった	657	92.8%	297	83.7%
学校の教育活動への支援を通じ、保護者や地域の方の学校に対する理解や信頼が深まった	652	92.1%	285	80.3%
保護者や地域の方の「生きがい」や「やりがい」などにつながった	439	62.0%	87	24.5%
子供を地域ぐるみで育てるといった教職員の意識が高まった	418	59.0%	135	38.0%
地域で子供を育てる意識が向上した	288	40.7%	85	23.9%
子供が地域の行事に積極的に参加するようになった	210	29.7%	105	29.6%
地域コミュニティが活性化した	110	15.5%	27	7.6%

1.2 「学校応援団」の活動の充実にあたっての課題

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
「ボランティア」を集めること	431	60.9%	141	39.7%
「学校応援コーディネーター」や「ボランティア」との打合せや調整時間の確保	406	57.3%	153	43.1%
「学校応援コーディネーター」として依頼できる人材の確保	394	55.6%	165	46.5%
「学校応援団」運営のための予算確保	298	42.1%	122	34.4%
「学校応援団」活動の内容を充実させること	238	33.6%	108	30.4%
「学校応援団」に支援していただく内容を明確にすること	206	29.1%	78	22.0%
「学校応援団」が使用する専用の場所の確保	201	28.4%	55	15.5%
地域の方の理解や協力を得ること	160	22.6%	77	21.7%
P T Aや保護者の理解や協力を得ること	154	21.8%	72	20.3%
教職員の理解や協力を得ること	114	16.1%	83	23.4%
企画・運営委員会や職員会議等での検討（分掌上の位置付けや活動ルールの作成等）	102	14.4%	49	13.8%
「学校応援コーディネーター」の力量や意欲を高めること	101	14.3%	28	7.9%
参考事例となる情報やノウハウ・ツールの不足	52	7.3%	20	5.6%
学校経営方針への位置付け	40	5.6%	41	11.5%
課題として考えられることはない	4	0.6%	4	1.1%

1.3 「学校応援団」の活動の充実に向けた取組方策

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
学校だよりやホームページ等を活用した「ボランティア」の確保	429	60.6%	160	45.1%
活動内容の見直しや新たな活動の企画・実施	381	53.8%	160	45.1%
自治会や町内会等との連携を強化した「学校応援コーディネーター」や「ボランティア」の確保	366	51.7%	119	33.5%
「学校応援団」の組織体制や活動計画、運営方法についての見直し	301	42.5%	138	38.9%
P T Aや保護者の「学校応援団」の活動への理解や協力の促進	290	41.0%	140	39.4%
地域への情報発信による「学校応援団」の活動への理解・関心の促進	264	37.3%	87	24.5%
職員会議や校内研修等を活用した教職員の理解の促進	191	27.0%	93	26.2%
「学校応援団」の活動について、「学校応援コーディネーター」や「ボランティア」と教職員がともに意見交換等を行う場の設定	159	22.5%	58	16.3%
児童生徒や教職員が地域活動に積極的に参加するなど、地域を活性化させるための取組の実施	143	20.2%	68	19.2%
「学校応援コーディネーター」を通じた新たな組織・団体等との連携作り	140	19.8%	51	14.4%